

宮城県のがん医療の現状と課題に関する 患者アンケート調査

報告書 (2017 年 8 月 23 日)

【調査主体】

がん患者会・サロン ネットワークみやぎ
代表 吉田久美子

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野

調査責任者 宮下光令

分析担当者 兼平麻衣子、五十嵐尚子、青山真帆、志田彩佳

調査に関するお問い合わせは事務局までお願いします。

分析内容などの詳細に関するお問い合わせは、以下までお願いします。

【事務局】宮城県がん総合支援センター（公益財団法人 宮城県対がん協会内）

<がん患者会・サロン ネットワークみやぎ>

担当： 田村久美子、針生一恵

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 5-7-30

TEL: 022-263-1560 FAX: 022-263-1548

E-mail: zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1 東北大学医学部保健学科 D 棟

TEL&FAX: 022-717-7924 E-mail: miya@med.tohoku.ac.jp

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野

担当 宮下光令（みやしたみつのり）

目次

1. 調査の概要	2
2. 調査結果の概要	3
3. 回答者の特性（表 2、3）	6
4. がんの診断からの治療経過について（図 1～5、表 4）	9
5. がんの診断・治療による経済的問題や経済状況について（図 6～15、表 5～6）	11
6. がんの診断・治療と仕事の関係について（図 16～20、表 6）	16
7. がん相談支援センターの利用状況について（図 21・22、表 7）	18
8. 「ピアサポート」について（図 23～27、表 8・9）	19
9. がん患者会・サロンについて（図 28～35、表 10・11）	22
10. 患者自身のレジリエンス（精神的回復力・耐久力）について（図 36、表 12）	26
11. 心的外傷後成長（Post Traumatic Growth: PTG）について（図 37、表 13）	27
12. 参考表（図で示した全てのデータを表で掲載しています）	29

1. 調査の概要

【背景】

平成27年10月に「がん患者会・サロン ネットワークみやぎ」が発足し、宮城県内それぞれに活動をしている「患者会」や「サロン」の連携体制が構築された。今後「がん患者会・サロン ネットワークみやぎ」から宮城県がん対策推進協議会に提言などを行いたいと考えているが、そのためにはネットワークに所属する会員がどのように宮城県におけるがん治療の現状と課題を認識しているかを明らかにする必要がある。

また、近年、患者自身のレジリエンス（精神的回復力・耐久力）と病気になったことによる成長（Post Traumatic Growth）という考え方ががん患者・がん体験者への支援の方法を考える上で注目されている。

【目的】

アンケート調査により、宮城県内の患者会会員が認識する「宮城県のがん医療の現状と課題」を明らかにする。また、学術的な目的としてがん患者・がん体験者における患者自身のレジリエンス（精神的回復力・耐久力）と外傷後成長（Post Traumatic Growth）に関する調査を行う。

【対象】

「がん患者会・サロン ネットワークみやぎ」に参加する24団体に所属するがん患者・がん体験者

【調査方法】

各患者会における配布、および郵送回収法を用いたアンケート調査（配布開始日2017年3月15日）

【予想される利益】

「がん患者会・サロン ネットワークみやぎ」からの県や関係諸団体への要望が実現すれば、調査参加者および県内のがん患者・がん体験者が今後、より適切ながん診療・ケアを受けることにつながる可能性がある。

また、学術的な目的としてがん患者・がん体験者における患者自身のレジリエンス（精神的回復力・耐久力）と外傷後成長（Post Traumatic Growth）が明らかになれば、今後のがん患者・がん体験者への支援のあり方について新たな方法が開発される可能性がある。

【倫理的配慮】

本調査は東北大学大学院医学系研究科の倫理審査委員会の承認後に実施された。

【回収率】（最終集計は2017年8月23日時点における全ての回収票にて行った）

表1

	n	%
配布数	532	
回収数	283	53%
無効回答数	13	
有効回答数	270	51%

2. 調査結果の概要

【回答者の特性について：回答者の多くは女性であった、再発・転移を有するものもいたが、全体としてはがんサバイバーへの回答者が多いことは全体の解釈において注意を要する】(6 ページ)

○回答者は女性が大部分を占め(93%)、原発部位は乳腺(41%)、子宮(27%)、卵巣(17%)で全体の85%を占めた。

○がんの診断からの経過は5年以上10年未満が最も多く(32%)、現在は治療を行っていない/経過観察のみのものが67%であった。また、再発・転移を有する回答者は19%であった。

○これらより、本調査の回答者は多くが女性のがんサバイバーであることに注意を要する。がんサバイバーの経験を明らかにするものであるが、本調査では難治性がんや緩和ケアに関する評価、男性の就労者の支援、がん患者の家庭全体の経済的問題について言えることは限定的である。

【がん治療の診断からの治療経過について：がん診断から初回治療までの情報提供については若干の改善の余地があるが、多くが納得がいく治療選択ができた」と回答した】(9 ページ)

○がん治療を決めるまでの間に医療スタッフは治療について患者が欲しい情報を提供したかという設問に「十分提供した」「ある程度提供した」という回答は75%であった。

○がん治療を決めるまでの間に患者が欲しい情報を得られたかという設問に「十分得られた」「ある程度得られた」という回答は65%であった。

○セカンドオピニオンを受けた患者は12%であったが、「出来れば受けたいと思ったがうけなかった」という患者は19%、「セカンドオピニオンを知らなかった」という患者が11%であった。

○セカンドオピニオンを受けられることについて医師から説明があったという患者は21%であった。

○がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返り、納得がいく治療選択ができたかという質問には「そう思う」が50%、「ややそう思う」が27%で、これらの合計は77%だった。また、「あまりそう思わない」は4%、「そう思わない」は1%だった。

○これらの結果から、がん診断から初回治療までの情報提供には改善の余地があることが示された。セカンドオピニオンを受けやすい体制の構築が必要である。

○多くが納得がいく治療選択が出来たと回答したが、がん種に偏りがみられ、かつ、がん治療が奏功した人が多く含まれているからかもしれない。

【がんの診断・治療による経済的問題や経済状況について：低所得者世帯は少なくないが、経済的理由には生活を切り詰めるなどで対処しており、医師から薦められた治療を経済的な理由で断った患者はほとんどいなかった】(11 ページ)

○現在の世帯年収は200~399万円が38%(101人)で最も多かったが、100~199万円も14%(38人)、100万円未満も5%(13人)あった。

○世帯年収のがんの診断を受ける前と現在の変化では「とても減った」が12%(32人)、「減った」が27%(73人)であった。また、変化した場合、それががんの診断を受けたことと関係があると思うという回答は27%(49人)であった。

○経済的理由により医師からすすめられたがん治療を変更したりやめたりした経験は「よくあった」という回答は0%(0人)、ときどきあったという回答は2%(5人)であった。

○経済的理由により、本来であれば受けたいと思っていたがんの治療をやめた経験は「よくあった」が0.4%(1人)、「ときどきあった」が3%(8人)であった。その内容は公的保険外の先進医療と公的保険外の保管代替療法が主であった。

○がんの治療を続けるお金を支払うために生活費を切り詰めたことがある経験は「よくあった」が9%（23人）、「ときどきあった」が18%（49人）であった。

○生活費を切り詰めた内容では「服飾費を減らした」が39%、「貯金を切り崩して生活した」が30%、「旅行やレジャーなどの余暇を減らした」が28%、「家族の生活費や学費などについて心配事があった」が24%、「より安価な食事に変更するなど、食費を減らした」が20%、「副作用で脱毛があったが、ウィッグの購入を諦めた」が14%であった。10%以下の回答として「お金のことで家族間で言い争いになった」「親類にお金を借りることがあった」「収入を増やすために労働時間を増やした」「病院の受診や処方薬の受取を控えることがあった」「家賃がより安価な住まいに引越しをした」などの回答があった。

○本調査ではがんによる経済的な影響はそれほど大きくはないが、女性の患者であり、がんサババーバーであることが大きく影響していると思われる。本調査だけで、がん罹患者への経済的影響が少ないとは言えない。

【がんの診断・治療と仕事との関係について：**がんの初期治療後も多くの患者が仕事を継続しているが、再就職の希望があり実現できていない患者も1割程度いた**】（16 ページ）

○がんと診断されたとき収入のある仕事をしていた患者は62%であった。

○がんの治療中に治療と仕事を両方続けられるような支援や配慮を職場や仕事上の関係者から受けたと「思う」「やや思う」という患者は58%であったが、「思わない」という患者も24%であった。

○がんの初期治療後に仕事を「休まなかった」「休んだが一度は復帰・復職した」という患者は64%だったが、「休んだのちに一度も復職・復帰せずに退職・廃業した」もしくは「休まず退職・廃業した」という患者は25%であった。現在の仕事の状況で「いったん退職・廃業し、現在、再就職の希望はあるが実現していない」という対象は11%であった。

○本調査ではがんによって休んだが、一度は、復職・復帰したという回答が多かったが、女性の患者であり、がんサババーバーであることが大きく影響していると思われる。本調査だけで、がん罹患者の就労支援が十分であるとは言えない。

【がん相談支援センターの利用状況について：**がん相談支援センターの利用率は3割程度であるが、利用した患者は概ね役に立ったと評価していた**】（18 ページ）

○がん相談支援センターの利用状況は「利用したことがある」が32%、「利用したことがないが知っている」が54%だったが、「知らない・わからない」という回答も合計14%あった。

○がん相談支援センターを利用して役になったかという質問は利用したもののうち75%が役に立ったと回答した。

○がん相談支援センターの利用率は必ずしも高くないが、利用した患者にとっては利益が得られている。本調査ではがん相談支援センターの利用ニーズは質問していないものの、利用率をより向上するような対策が有益な可能性がある。

【ピアサポートについて：**ピアサポートに対する期待は大きかった**】（19 ページ）

○ピアサポートという言葉については「知っており、利用・活動したことがある」が31%、「知っているが利用・活動したことはない」が24%であったが、「聞いたことがあるがよくわからない」が15%、「知らない・聞いたことがない」が30%であった。

○ピアサポートの必要性に関しては「とても必要」が55%、「どちらかといえば必要」が28%で合計83%であった。

○自分と同じがんの種類（部位）の患者さんの体験談を聞きたいと思う患者は「そう思う」が57%、「どちらかといえばそう思う」が25%で合計82%だった。

○自身がピアサポートを行っていききたいかという質問には「そう思う」が25%、「どちらかといえばそう思う」が21%だった。

○ピアサポート活動でどのような内容を聞きたいか、どのようなことを希望するかという質問では「副作用への対処について聞きたい」92%、「日常生活について聞きたい」86%、「治療について聞きたい」82%であり、「自分の気持ちなど話を聞いてもらいたい」80%、「つらい気持ちを共有したい」76%、「治療のことで相談に乗ってもらいたい」74%、「日常生活のことで相談に乗ってもらいたい」69%、「家族や子供のことについて相談したい」49%、「社会復帰、仕事のことについて相談したい」48%と非常に多様で多くの項目の割合が高かった。

○ピアサポートに対する期待は高いが、必ずしも利用している経験が多い訳ではない。ピアサポートの拡大は必用と思われるが、今回の調査対象はがん患者会・サロンに参加している人が多く、必ずしも直接的に一般化はできない。

【がん患者会・サロンについて：**がん患者会・サロンに対する評価は高かった。これは回答者の特性を考えれば当然かもしれない**】(22 ページ)

○患者会の会員は回答者の86%であり(100%でない理由は後日調べますが、ゲストなどにも配布していると思われます)、がん患者会やサロンを利用したことがあるという回答は83%であった。

○患者会・サロンへの参加時期は診断から3年未満が78%であった。

○患者会・サロンの存在を知ったのは「病院内のポスターやちらし」が61%、「医師・看護師などのスタッフから聞いた」が32%であった。

○がん患者会やサロンの利用について「とても役に立った」が69%、「やや役に立った」が26%で合計95%だった。

○他の患者にがん患者会やサロンの入会・利用を薦めるかは「薦める」が45%、「どちらかといえば薦める」が37%で合計82%であった。

○患者会・サロンで役に立った理由は「気分転換が出来た」95%、「聞きたいことが聞けた」85%、「自分の胸の内が話せた」77%、「仲間・友達ができた」71%であった。

○患者会・サロンに対する要望は「個別に相談できるような企画があるといい」69%、「講演会や勉強会の回数を増やして欲しい」65%、「もっと広報紙などで情報発信して欲しい」60%、「レクリエーションなど楽しめるような会をもっと開催して欲しい」55%であった。

○がん患者会、サロンに対する評価は高かったが、今回の対象はこれらに参加経験がある人や継続的に参加している人が多く、一般化はできない。

【患者自身のレジリエンス(精神的回復力・耐久力)について】(26 ページ)

※これは学術研究を目的とした質問なので本報告書では図表の提示にとどめ、詳細な分析結果や考察は後日公表する。

【心的外傷後成長(Post Traumatic Growth: PTG)について】(27 ページ)

※これは学術研究を目的とした質問なので本報告書では図表の提示にとどめ、詳細な分析結果や考察は後日公表する。

3. 回答者の特性（表2、3）

表2（N=270）

		度数	%
○性別	男	19	7.2%
	女	244	92.8%
	無回答	7	
○年齢	平均±SD	62.4±38.8	
	30代	6	2.3%
	40代	43	16.4%
	50代	75	28.5%
	60代	87	33.1%
	70代	41	15.6%
	80代	10	3.8%
	90代	1	0.4%
	無回答	7	
○診断されたがんの種類（原発巣）をお答えください。			
（複数回答）			
	乳腺	109	41.4%
	大腸	14	5.3%
	胃	19	7.2%
	肺	13	4.9%
	肝臓	2	0.8%
	前立腺	3	1.1%
	子宮	70	26.6%
	卵巣	45	17.1%
	食道	2	0.8%
	すい臓	1	0.4%
	口腔	2	0.8%
	甲状腺	3	1.1%
	悪性リンパ腫	3	1.1%
	骨	4	1.5%
	脳腫瘍	2	0.8%
	膀胱	2	0.8%
	精巣	1	0.4%
	原発不明	2	0.8%
	その他	7	2.7%
	無回答	7	

表 2 のつづき

		度数	%
メインの原発部位	乳腺	101	40.9%
	子宮	58	23.5%
	卵巣	37	15.0%
	胃	13	5.3%
	肺	8	3.2%
	大腸	7	2.8%
	甲状腺	3	1.2%
	前立腺	2	0.8%
	すい臓	2	0.8%
	口腔	2	0.8%
	悪性リンパ腫	2	0.8%
	骨	2	0.8%
	原発不明	2	0.8%
	食道	1	0.4%
	脳腫瘍	1	0.4%
	膀胱	1	0.4%
	肝臓	0	0.0%
	精巣	0	0.0%
	その他	5	2.0%
	無回答	23	

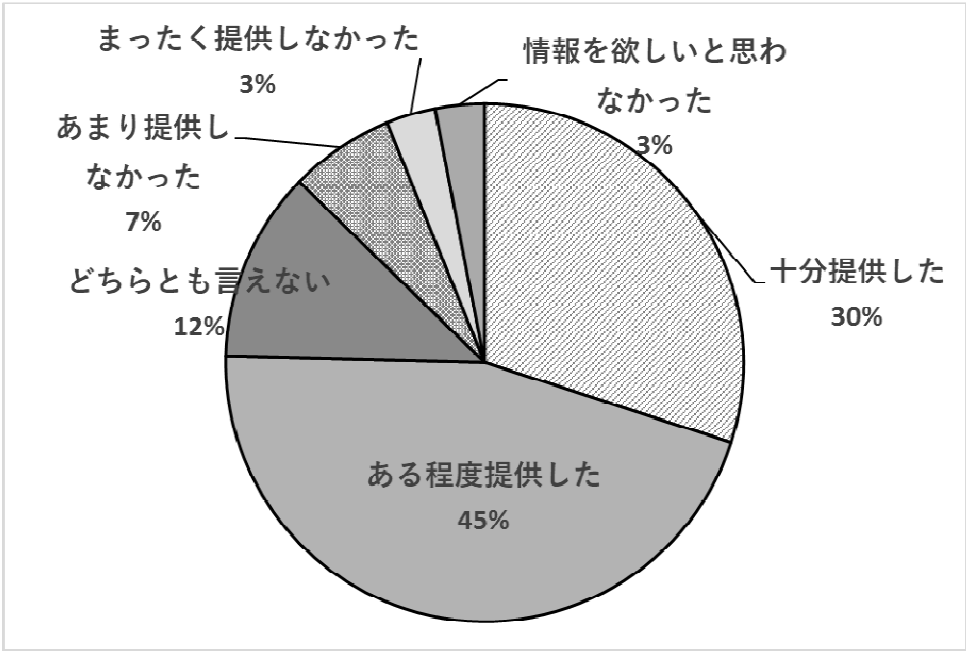
表3. がんの診断・治療について

		度数	%
○診断からの期間	1年未満	23	9%
	1年以上3年未満	52	20%
	3年以上5年未満	41	16%
	5年以上10年未満	85	32%
	10年以上15年未満	38	14%
	15年以上20年未満	13	5%
	20年以上	11	4%
	無回答	7	
○これまで受けたがんの治療 (複数回答)	手術	246	94%
	内視鏡治療	7	3%
	化学療法(抗がん剤/分子標的薬)	176	67%
	ホルモン療法	76	29%
	放射線療法	109	41%
	治療をしていない	3	1%
	その他	6	2%
	無回答	7	
○現在受けている治療 (複数回答)	化学療法(抗がん剤/分子標的薬)	36	14%
	ホルモン療法	43	17%
	放射線療法	10	4%
	疼痛緩和	2	1%
	治療を行っていない/経過観察のみ	170	67%
	その他	9	4%
	無回答	15	
○再発・転移の経験の有無	有	51	19%
	無	211	81%
	無回答	8	

4. がんの診断からの治療経過について（図 1～5、表 4）

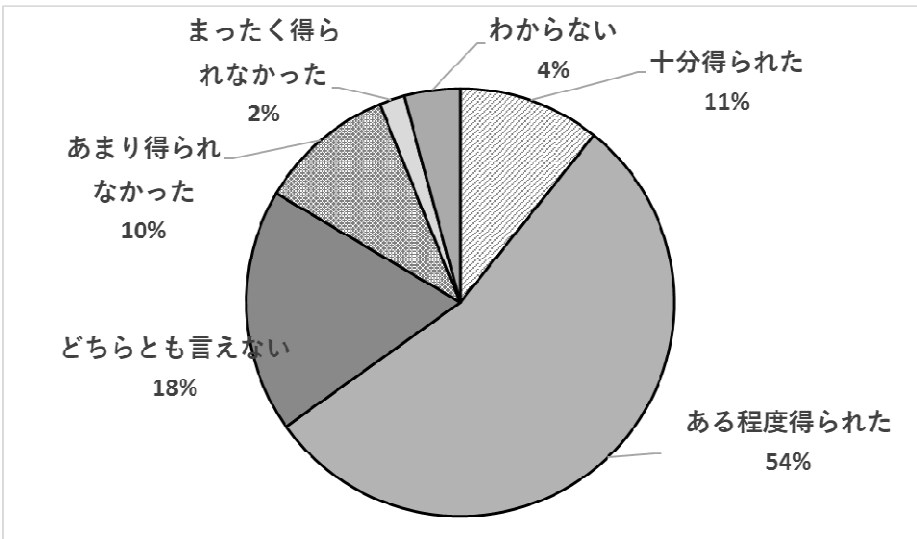
○がんの治療を決めるまでの間、医療スタッフは治療についてあなたがほしいと思った情報を提供しましたか？

図 1（N=247）



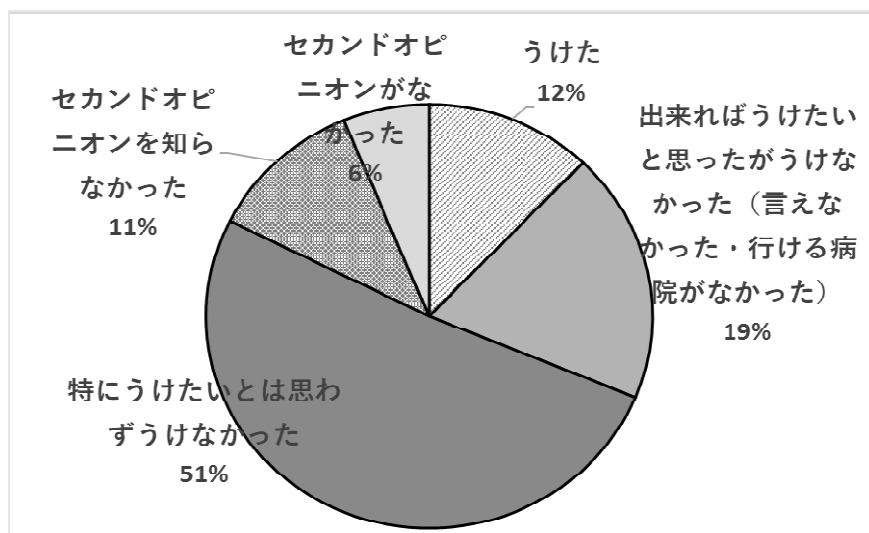
○がんの治療を決めるまでの間、あなたが欲しいと思った情報を得ることができましたか？

図 2（N=248）



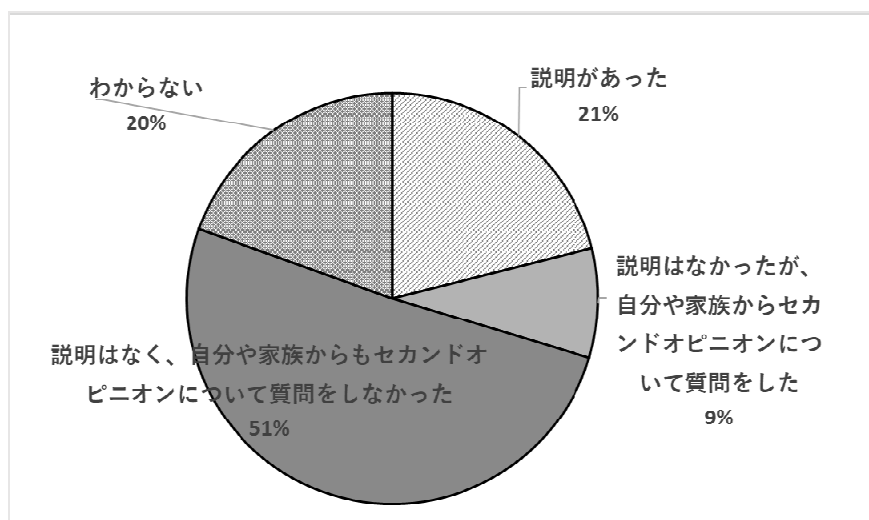
○あなたはセカンドオピニオンを受けましたか？

図 3 (N=243)



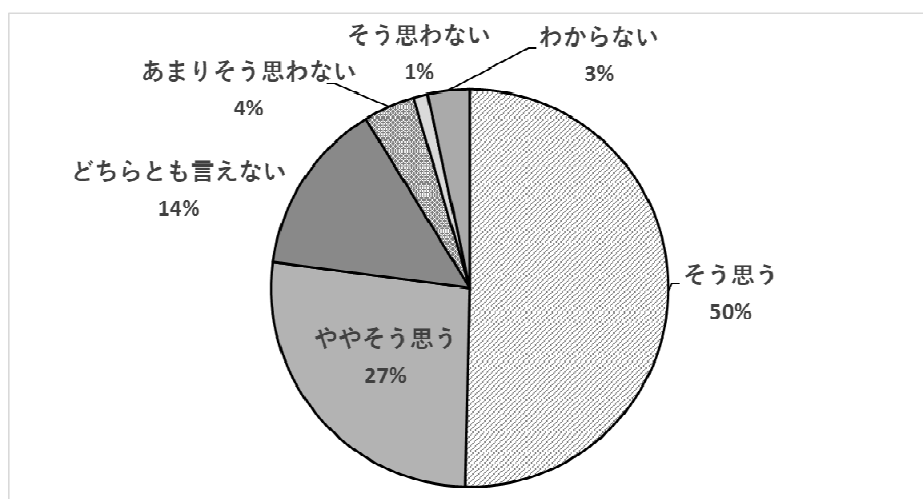
○がんの治療が始まる前に、他の医師の意見を聞くセカンドオピニオンを受けられることについて、担当医から説明はありましたか？

図 4 (N=243)



○がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、納得のいく治療選択ができたと思いますか？

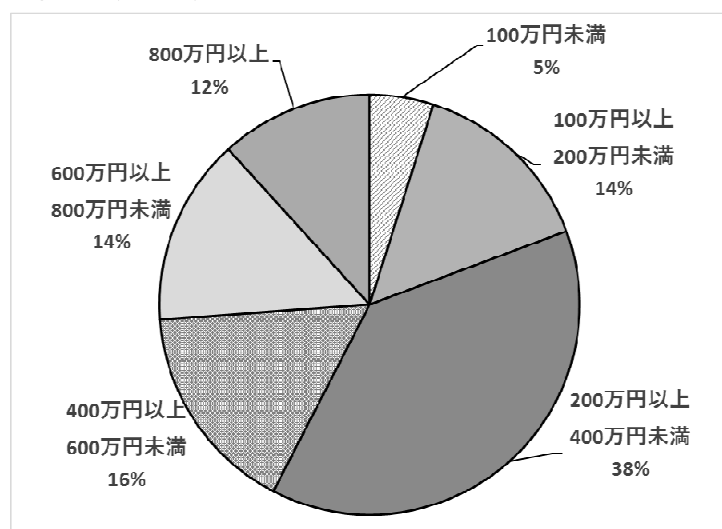
図 5 (N=249)



5. がんの診断・治療による経済的問題や経済状況について（図6～16、表5～6）

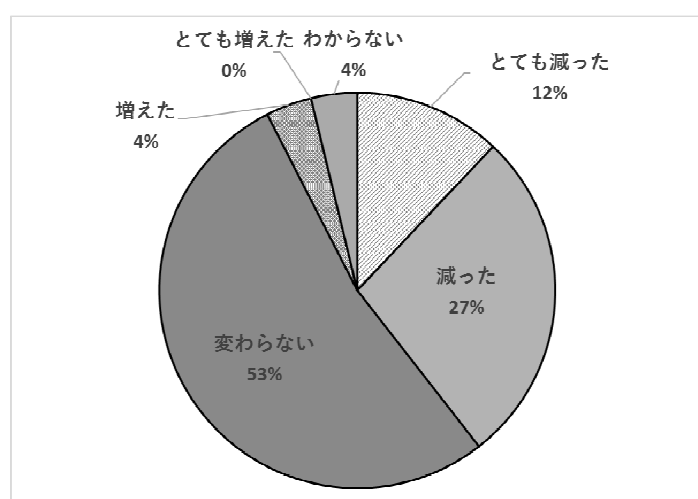
○現在の世帯収入

図6（N=264）



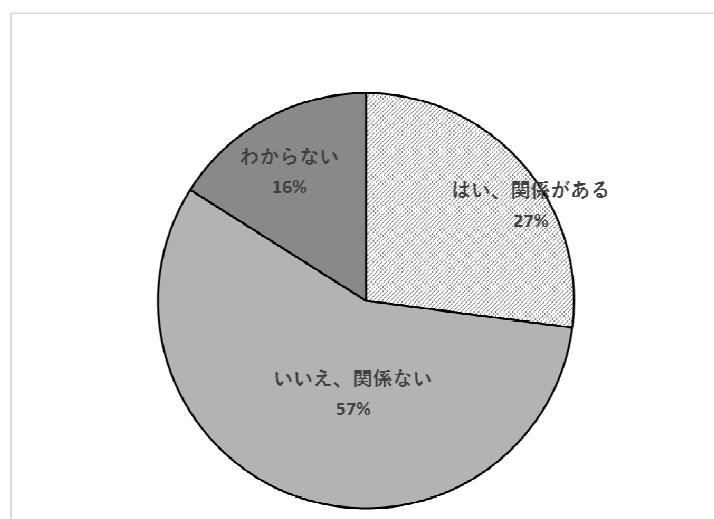
○世帯年収はがんの診断を受ける前と現在とでどのように変化しましたか？

図7（N=264）



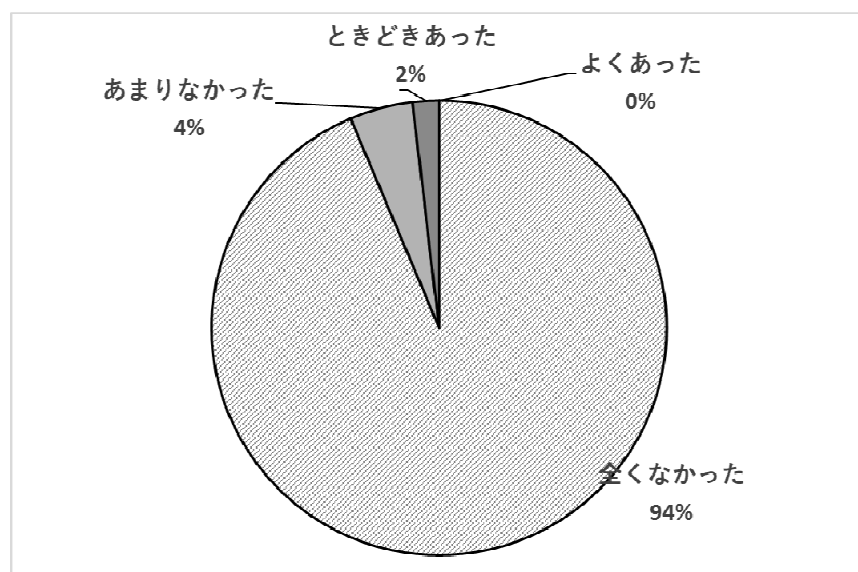
※世帯年収が変化した場合、それはがんの診断を受けたことと関係があると思いますか？

図8（N=181）



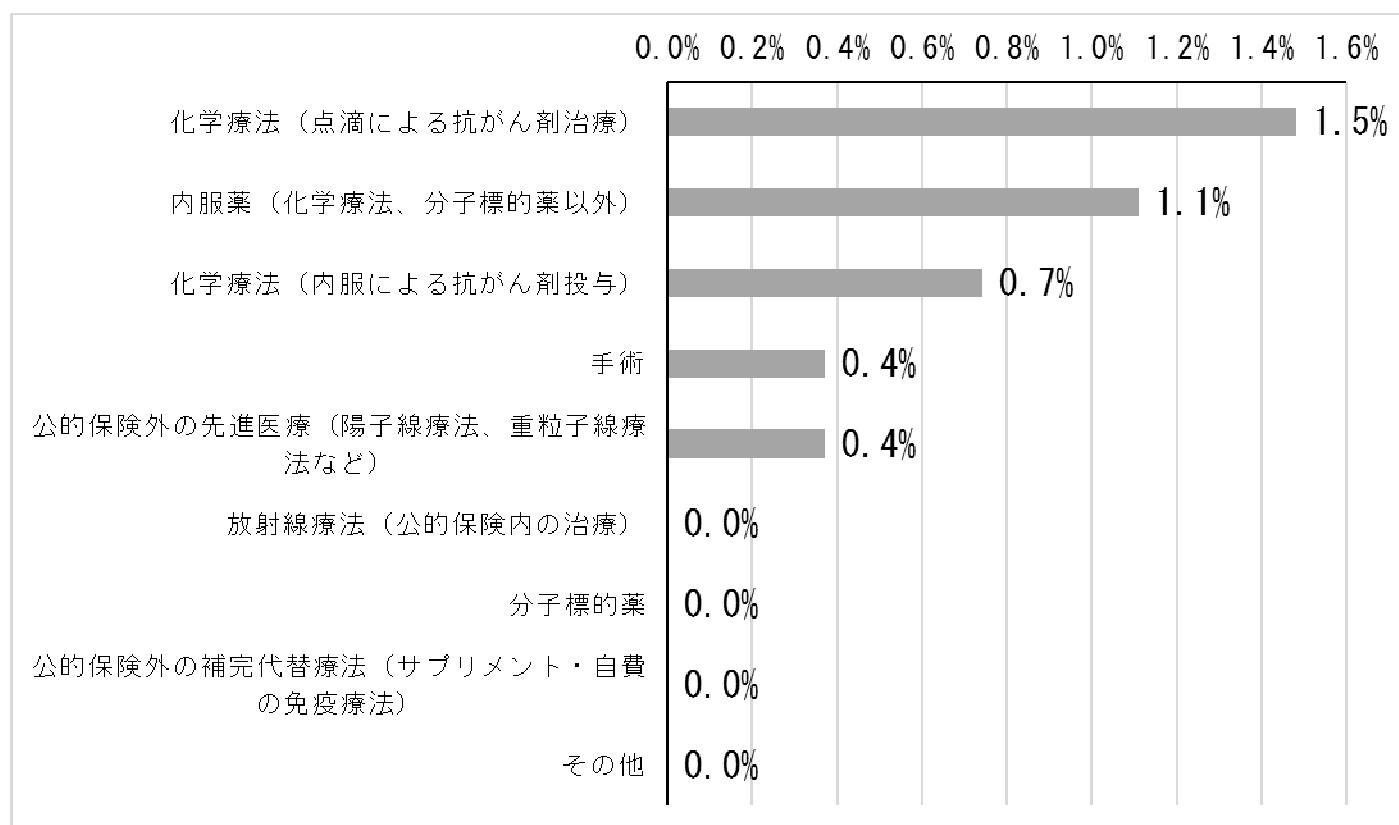
○経済的理由のために、医師からすすめられたがんの治療を変更したりやめたりしたことがありますか？

図 9 (N=267)



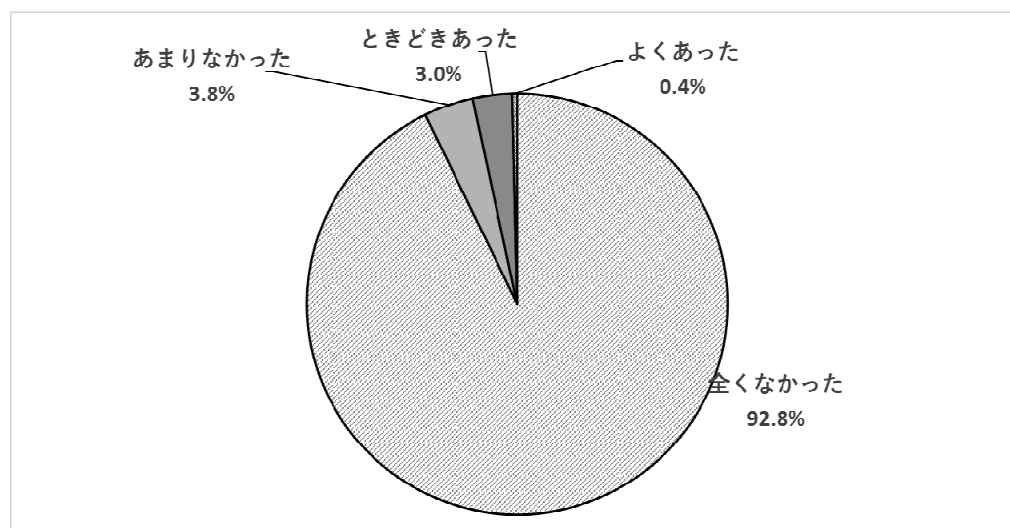
・「あまりなかった」～「時々あった」と回答した方でどの治療を変更・中止しましたか？（複数回答）

図 10 (N=11)



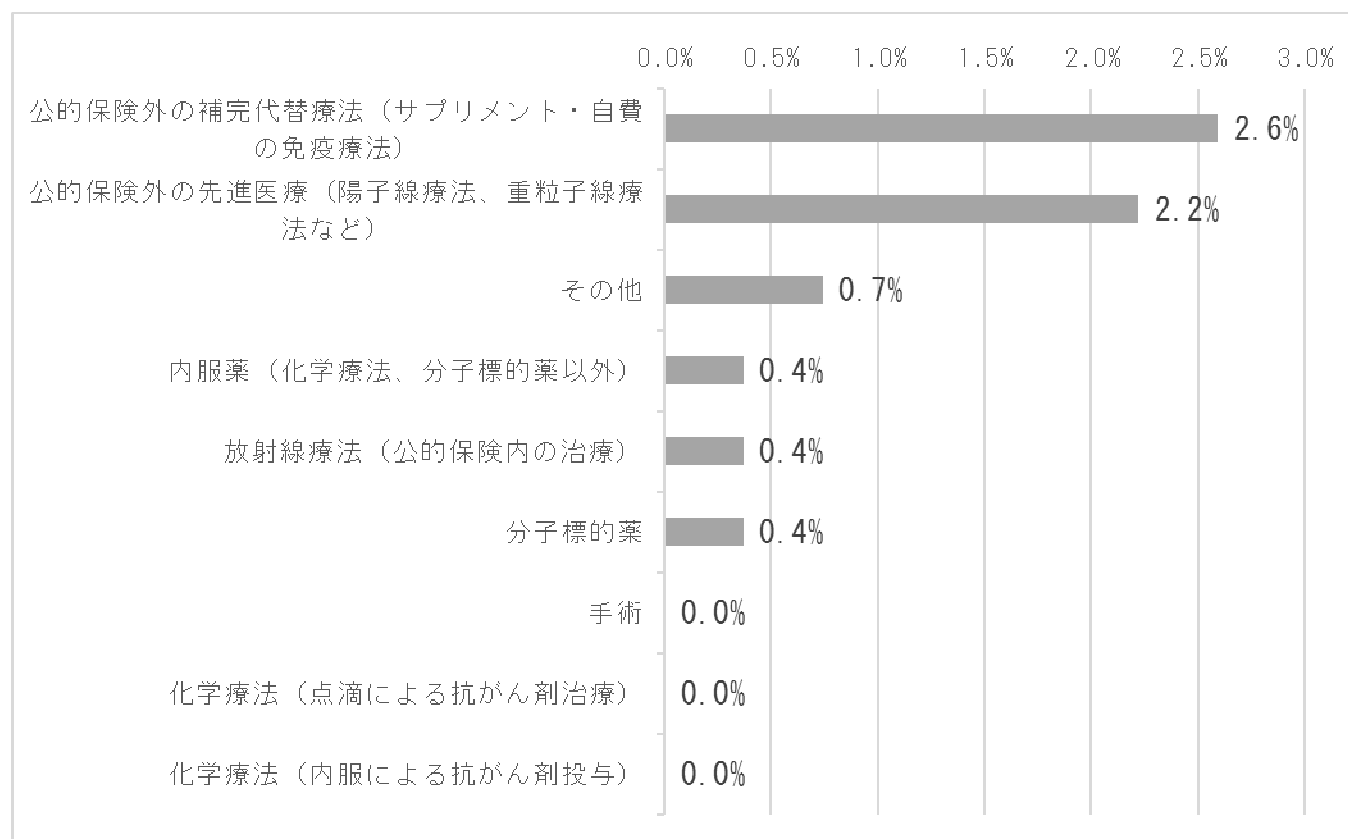
○あなたは経済的な理由のために、本来であれば受けたいと思っていたがんの治療をやめたことがありますか？

図 1 1 (N=264)



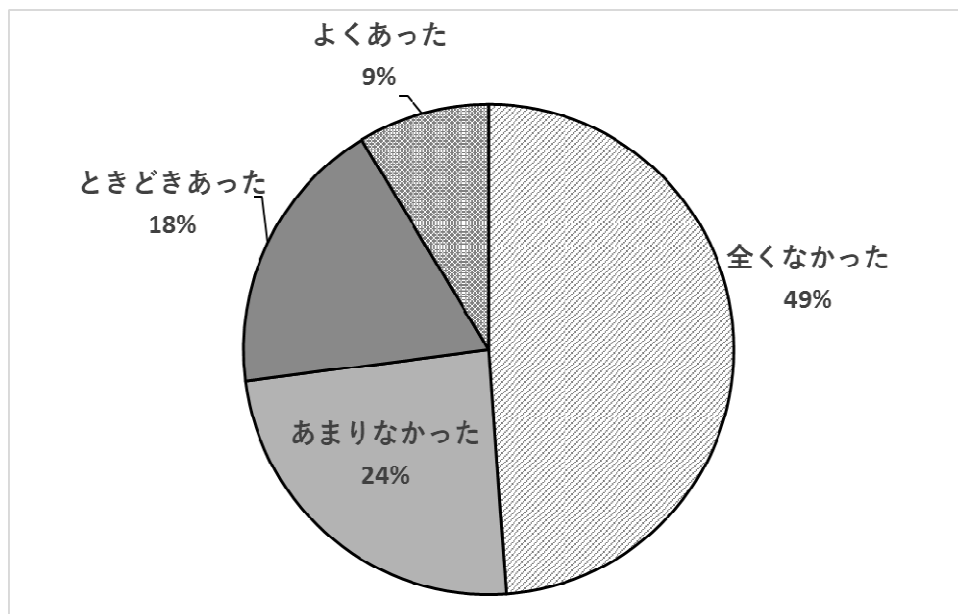
・「あまりなかった」～「時々あった」と回答した方でどの治療を中止しましたか。(複数回答)

図 1 2 (N=18)



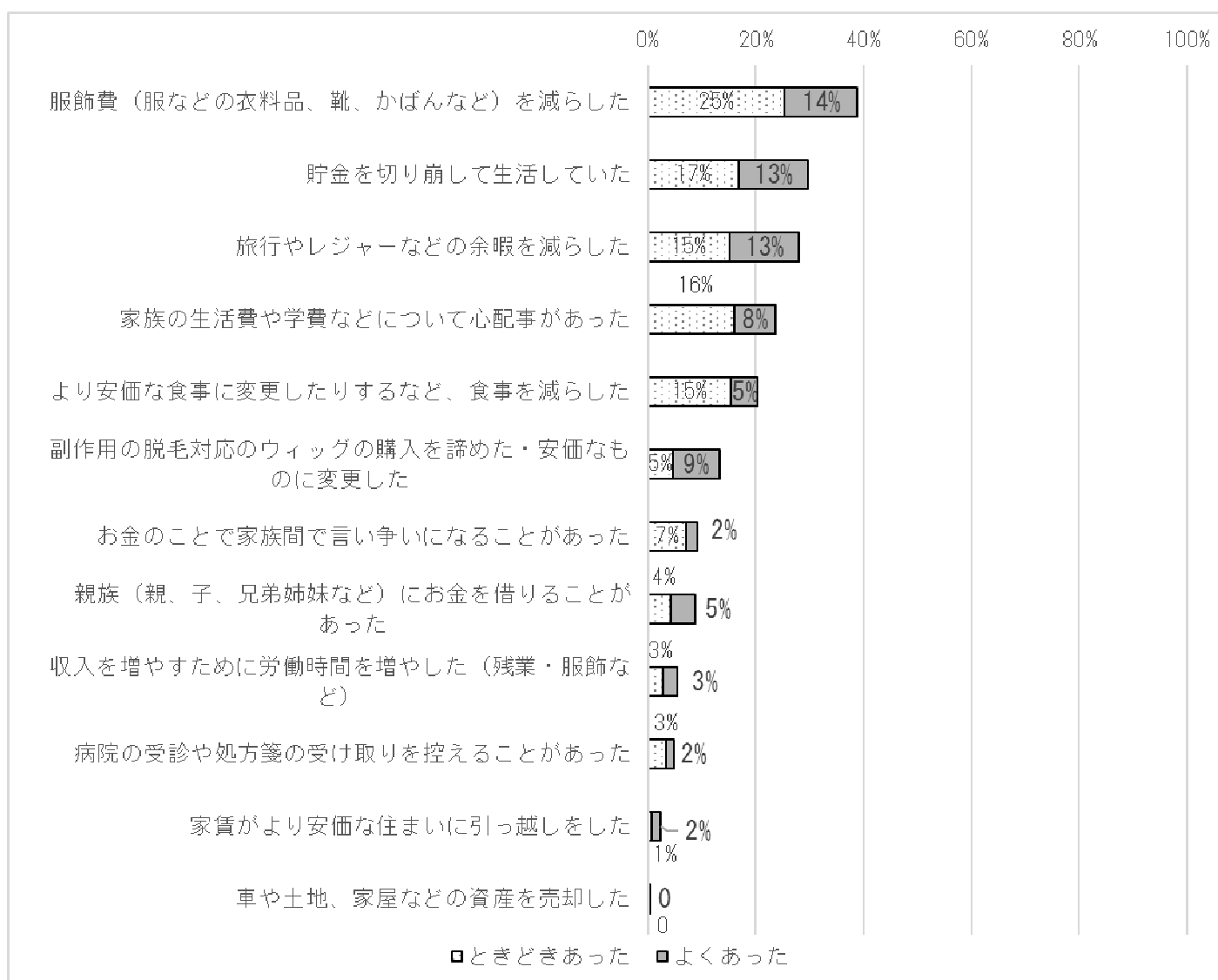
○あなたはがんの治療を続けるお金を支払うために、生活費を切り詰めたことがありますか？

図 1 3 (N=266)



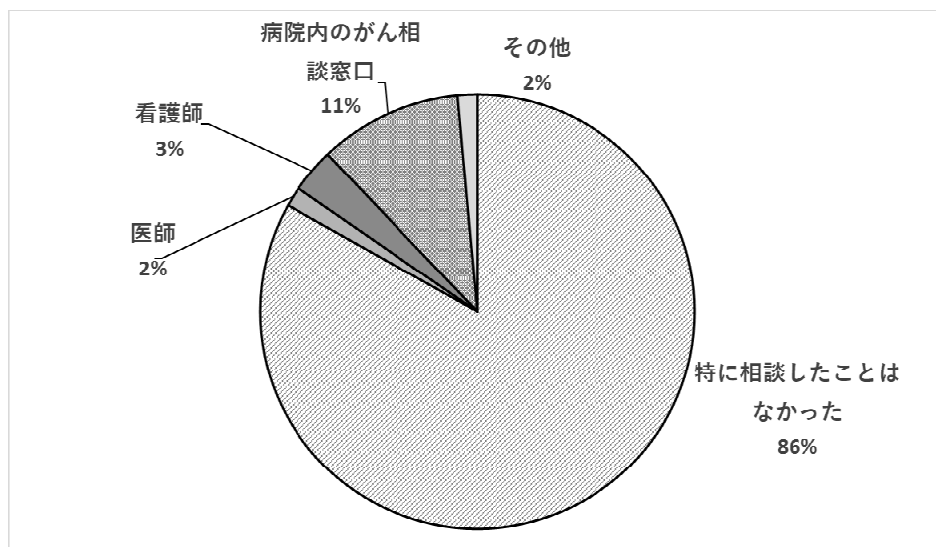
○あなたはこれまでに治療費（通院のための交通費なども含む）のために以下のようなことがありますか？

図 1 4 (N=265)



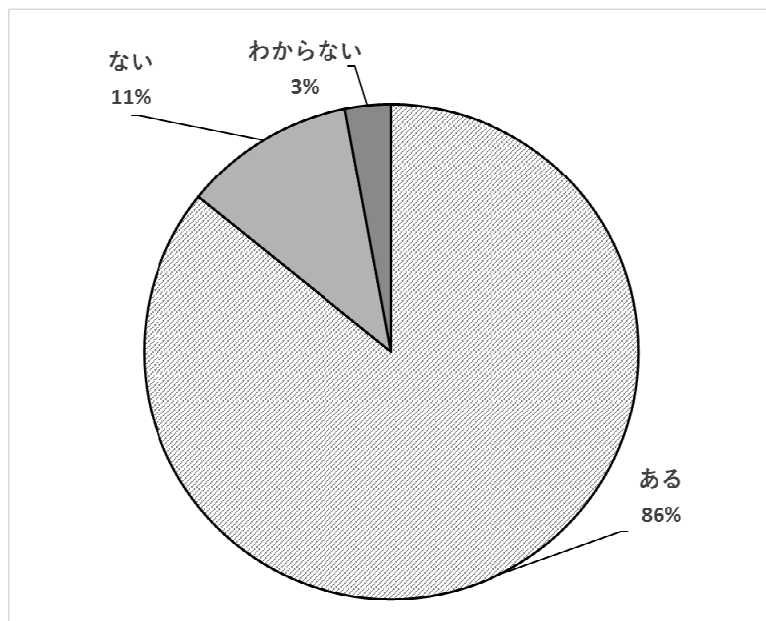
○患者様またはご家族が、がんの治療について、金銭的な問題や経済的問題について医療者に相談したことがありますか？（複数回答）

図 1 5 （N=265）



○あなたはこれまでに高額療養費制度や限度額適用認定を利用したことがありますか？

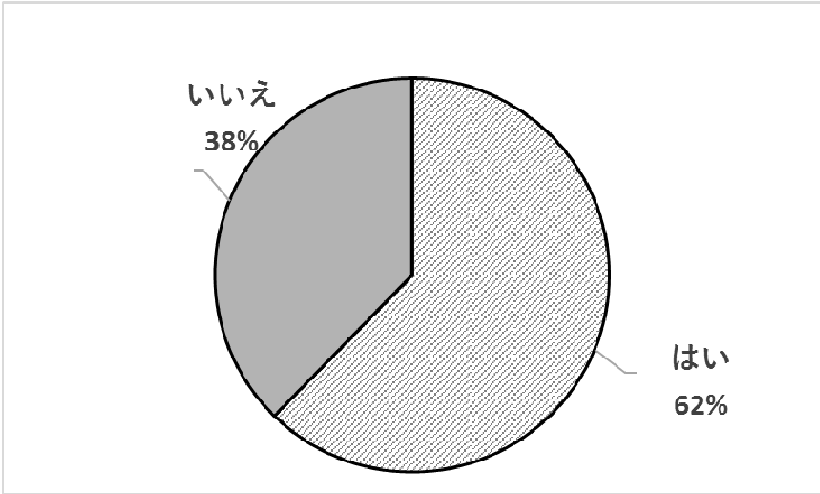
図 1 6 （N=267）



6. がんの診断・治療と仕事の関係について（図17～21、表6）

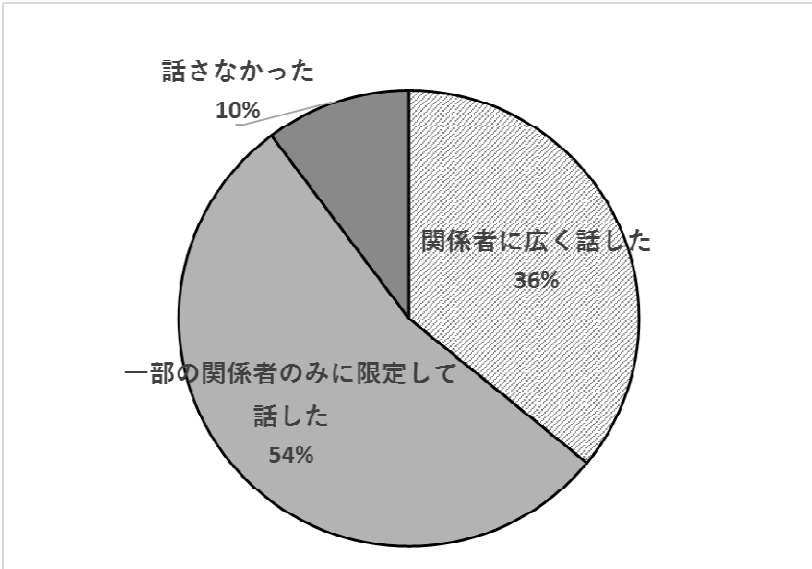
○がんと診断された時、収入のある仕事をしていましたか？

図17（N=268）

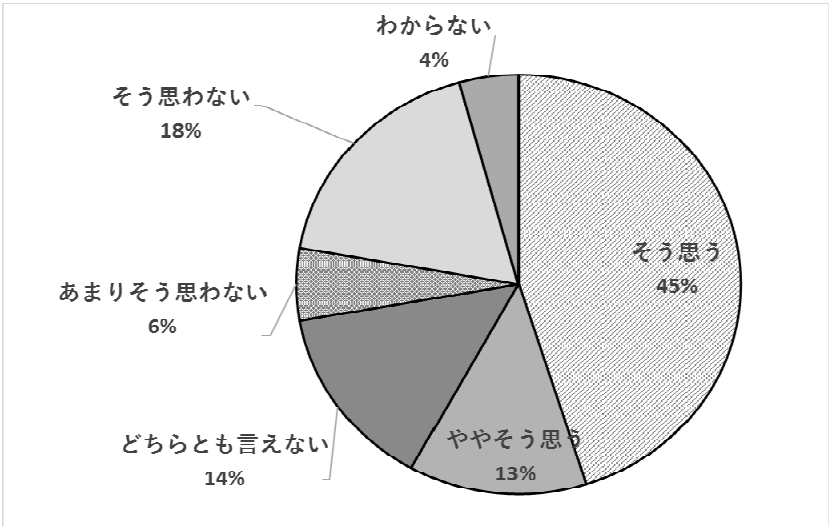


○働いていた職場や仕事上の関係者にがんと診断されたことを話しましたか？

図18（N=167）

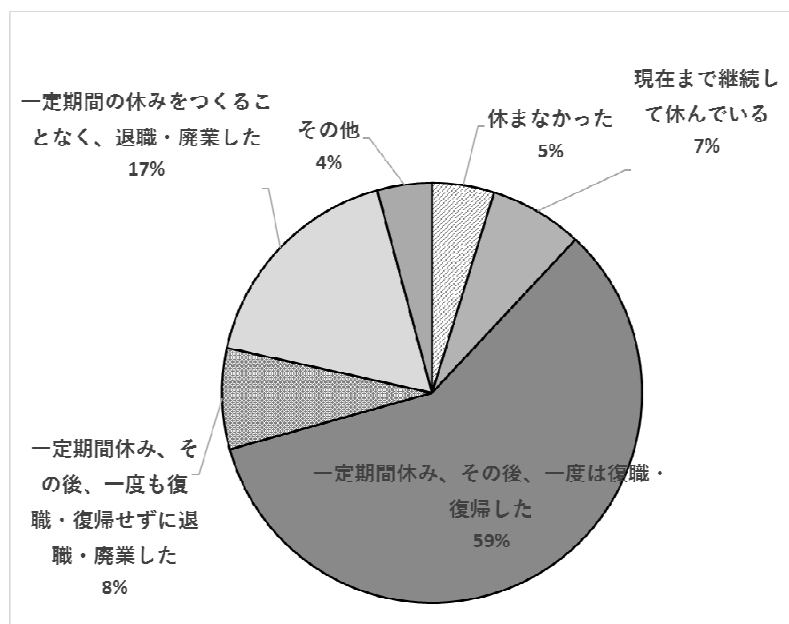


○がんの治療中に、治療と仕事を両方続けられるような支援または配慮を職場や仕事上の関係者から受けたと思いますか？図19（N=162）



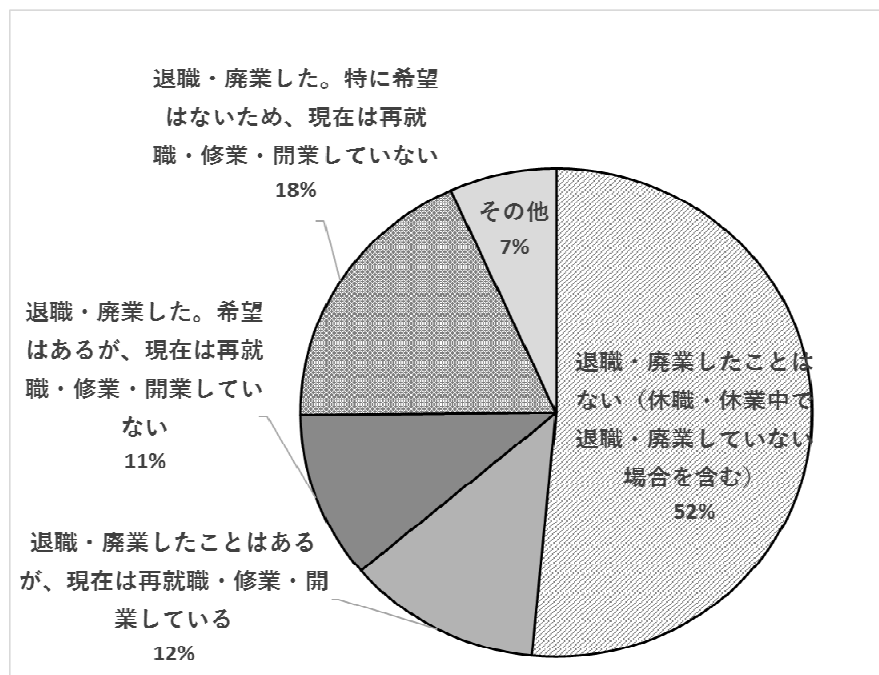
○がんで初めて治療・療養したとき、一定期間仕事を休みましたか？また、その後復職・復帰しましたか？

図 2 0 (N=167)



○これまでのがん治療・療養を通して、退職・廃業の有無と現在の仕事の状況について

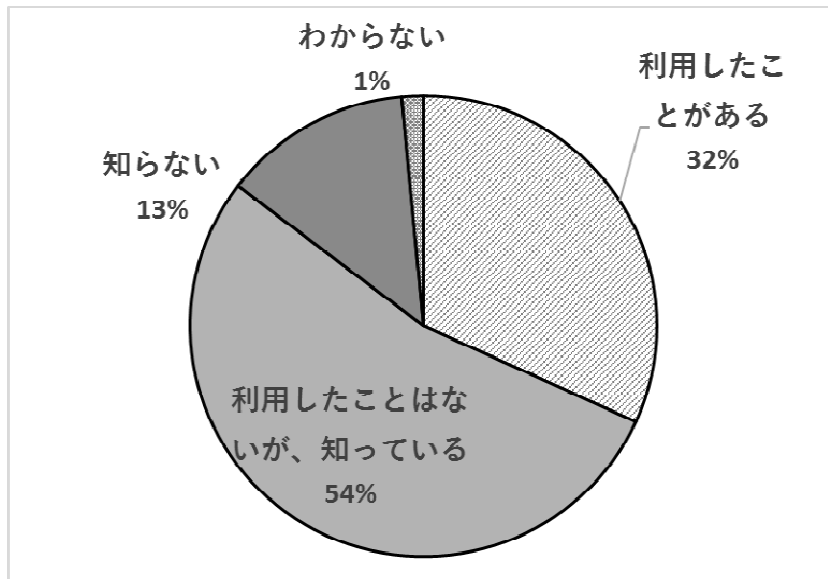
図 2 1 (N=163)



7. がん相談支援センターの利用状況について（図22・23、表7）

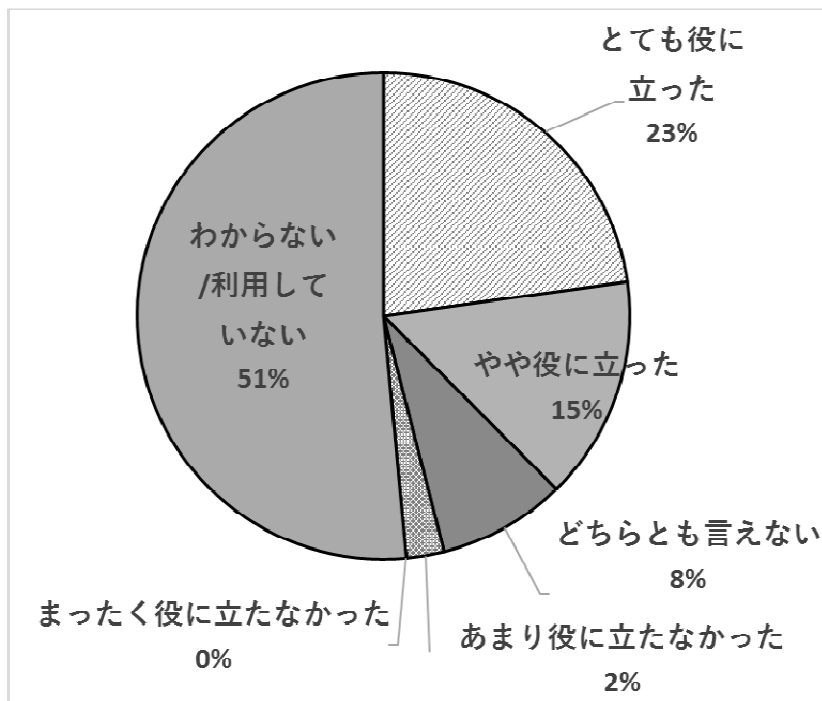
○がん相談支援センターを知っていますか？

図22（N=267）



○がん相談支援センターを利用して役に立ったと思いましたか？

図23（N=202）

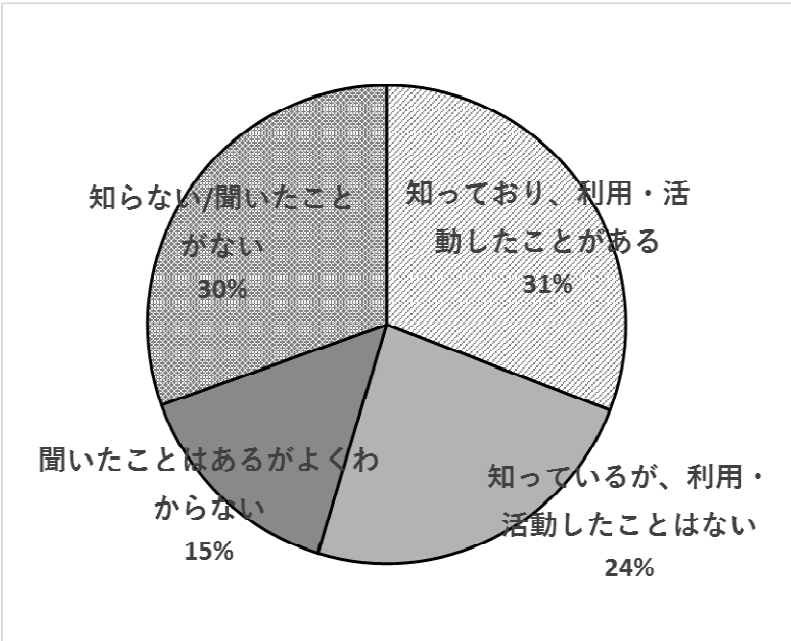


8. 「ピアサポート」について（図24～28、表8・9）

ピアサポートの定義：がん体験者が、同じ仲間としてがん患者やご家族の支援をしたりすること

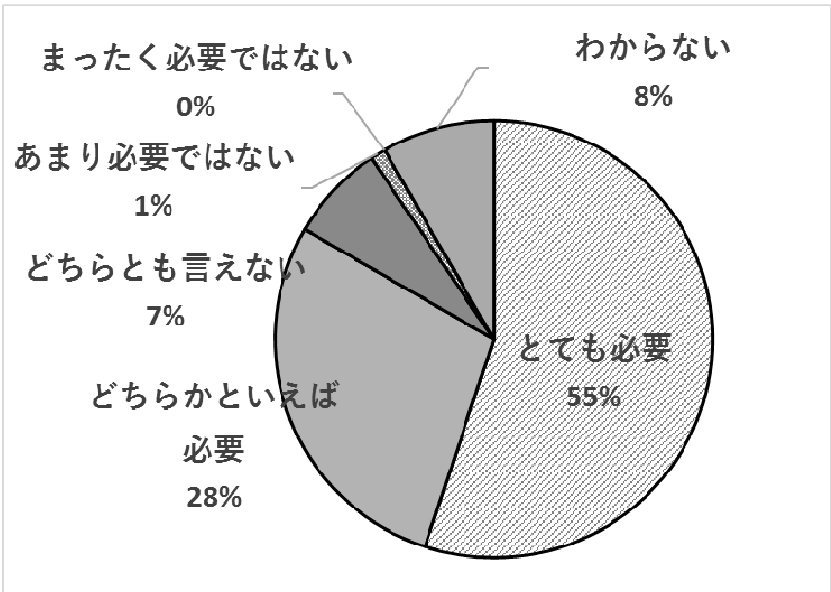
○あなたはピアサポートという言葉を知っていますか？

図24（N=269）



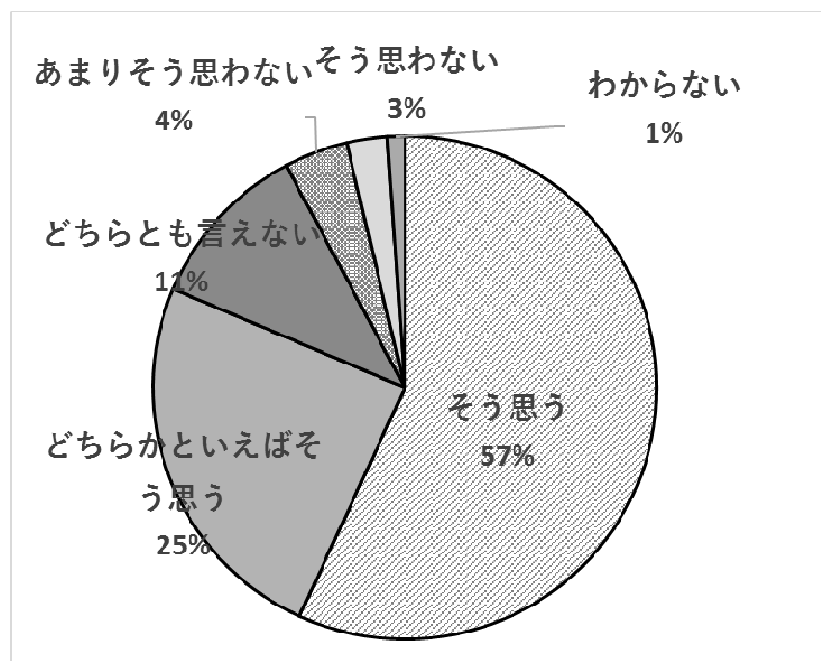
○ピアサポートは必要だと思いますか？

図25（N=265）



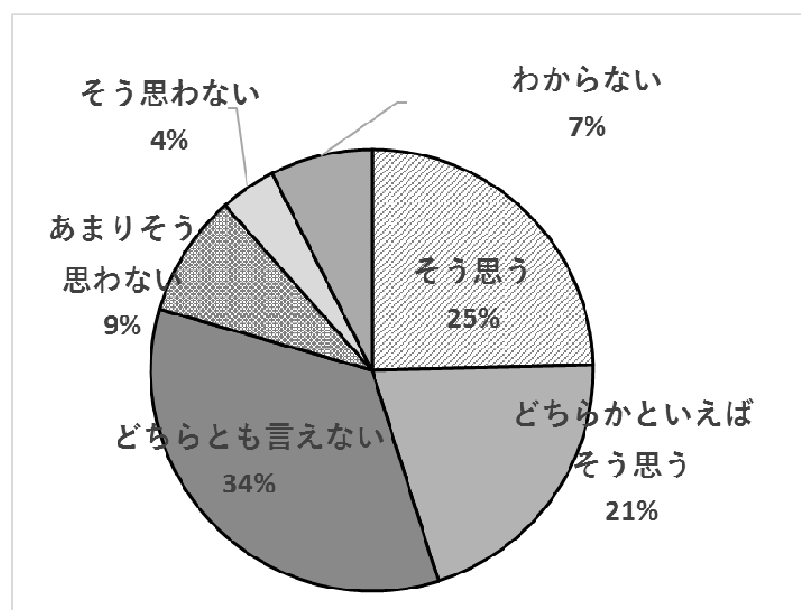
○自分と同じがんの種類（がんの部位）の患者さんの体験談を聞きたいと思いますか？

図 2 6 （N=269）



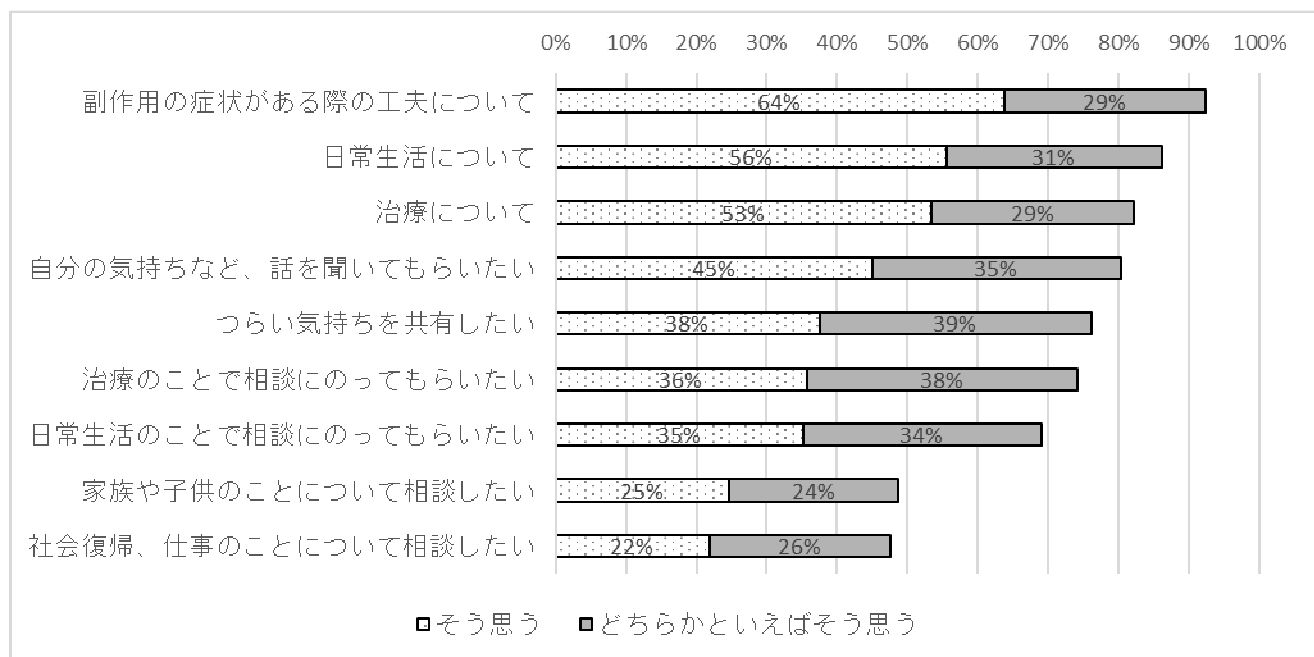
○あなた自身がピアサポート活動を行っていきたいと思いますか？

図 2 7 （N=268）



○ピアサポート活動について、どのような内容を聞きたいと思いますか？また、どのようなことを希望しますか？

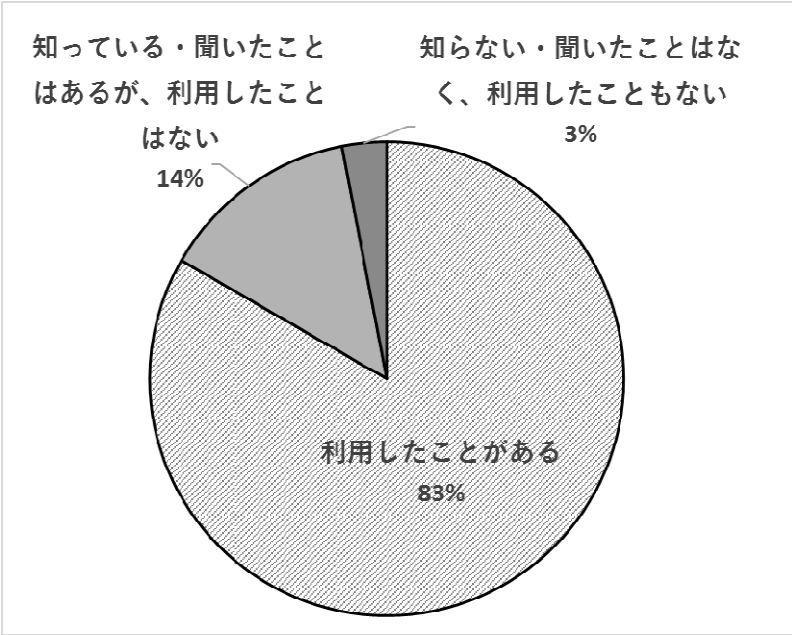
図 2 8 (N=262)



9. がん患者会・サロンについて（図29～36、表10・11）

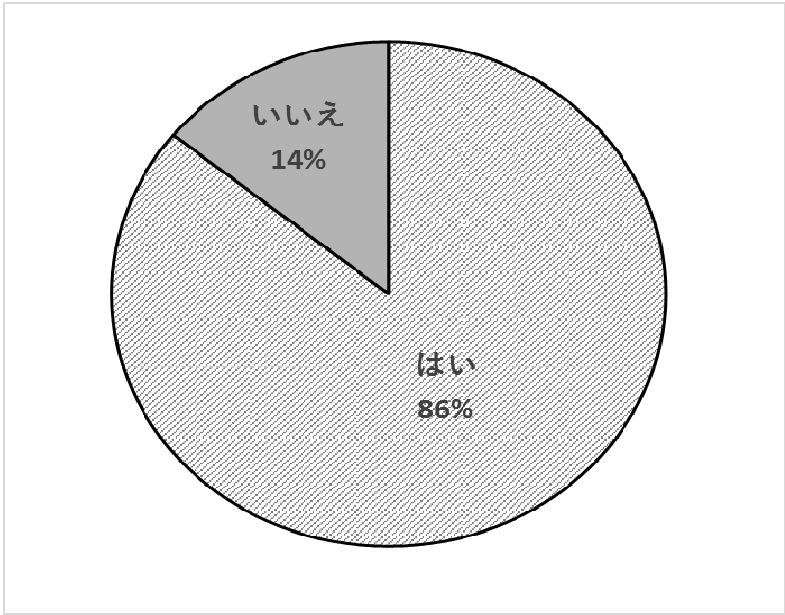
○あなたはがん患者会やサロンを利用したことがありますか？

図29（N=264）



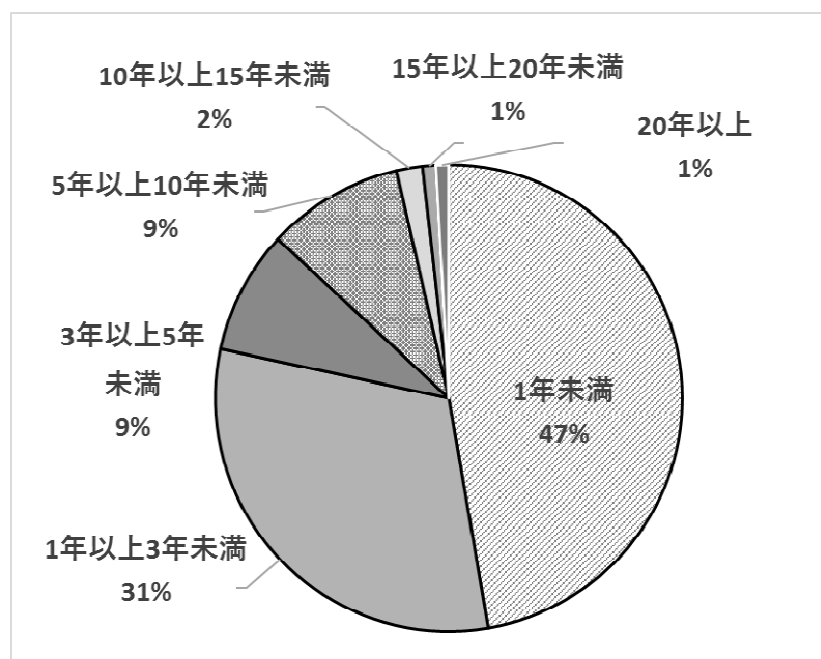
○あなたは患者会の会員ですか？

図30（N=219）



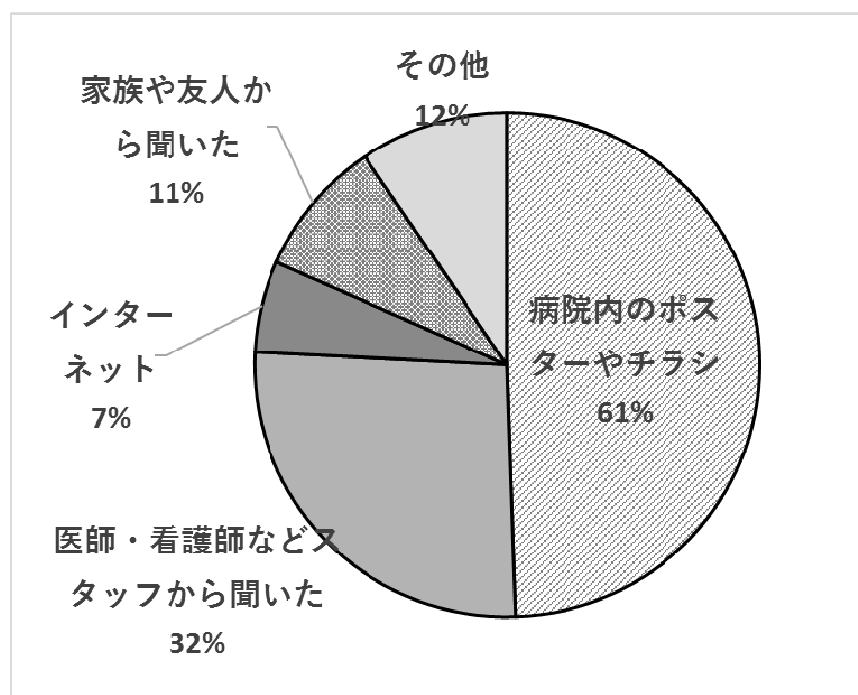
○患者会・サロンに参加したのは、がんと診断されてからどれくらいの時期ですか？

図 3 1 (N=222)



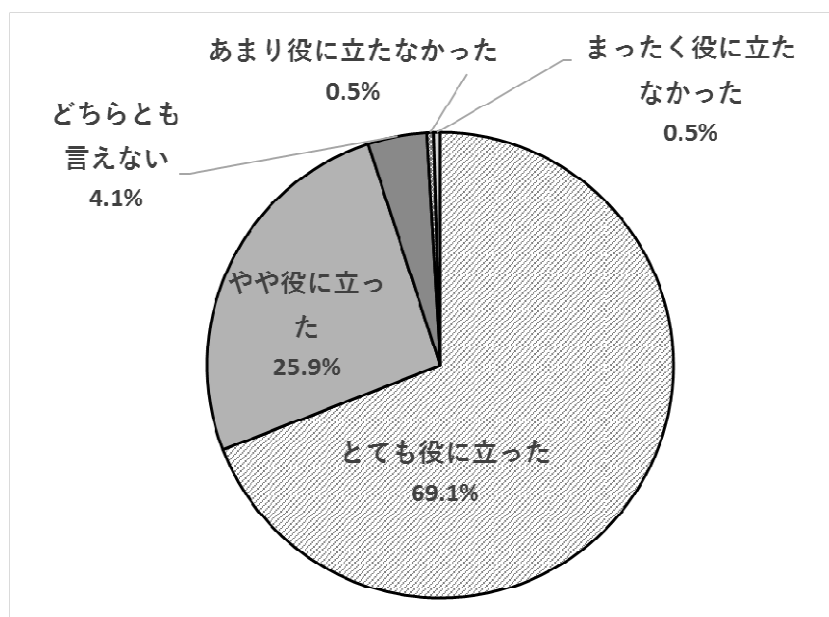
○患者会・サロンの存在を何で知りましたか？（複数回答）

図 3 2 (N=223)



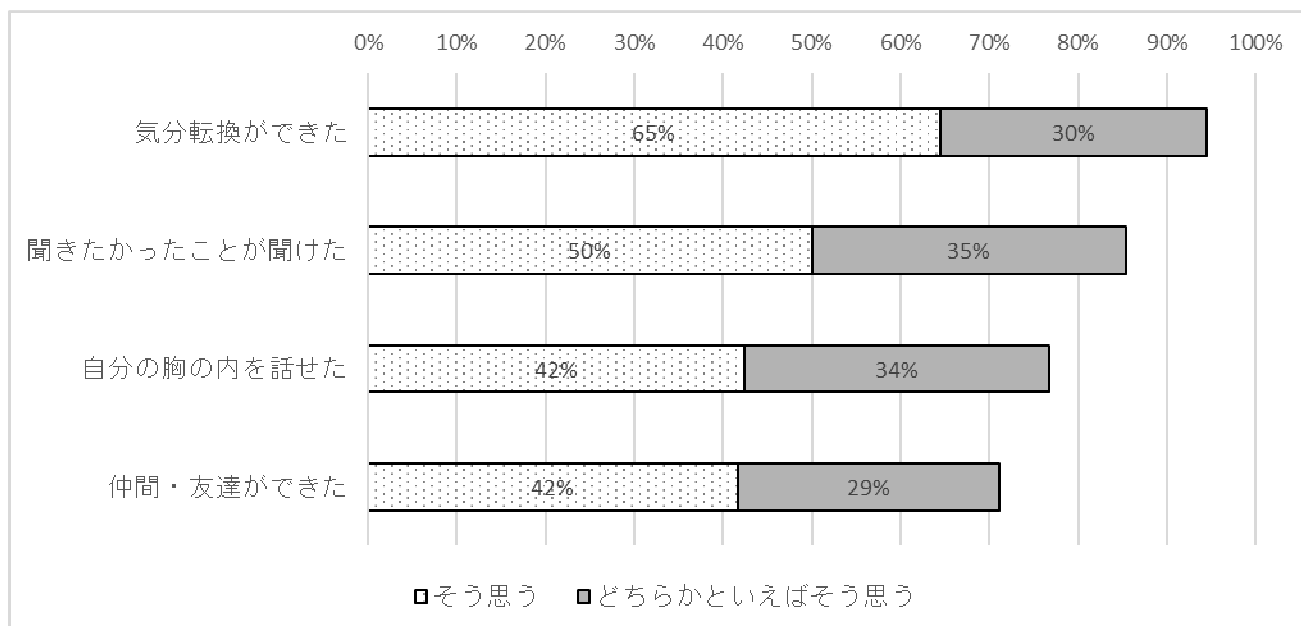
○がん患者会やサロンの利用は役に立ちましたか？

図 3 3 (N=220)

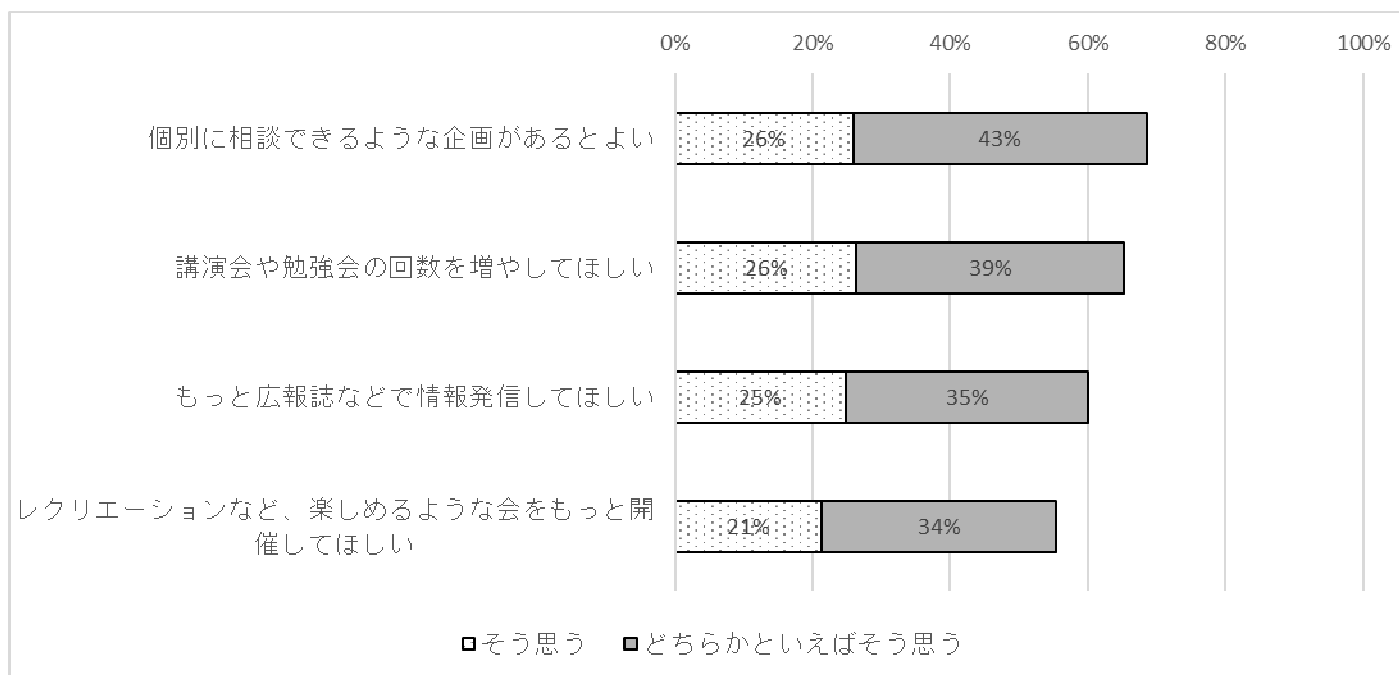


○患者会・サロンの参加・利用はどのような点で役に立ちましたか？また、どのような点を改善してほしいと思いますか？患者会・サロンの参加・利用について感じていることについて、以下のあてはまるものを教えてください。

・役に立った点 図 3 4 (N=220)

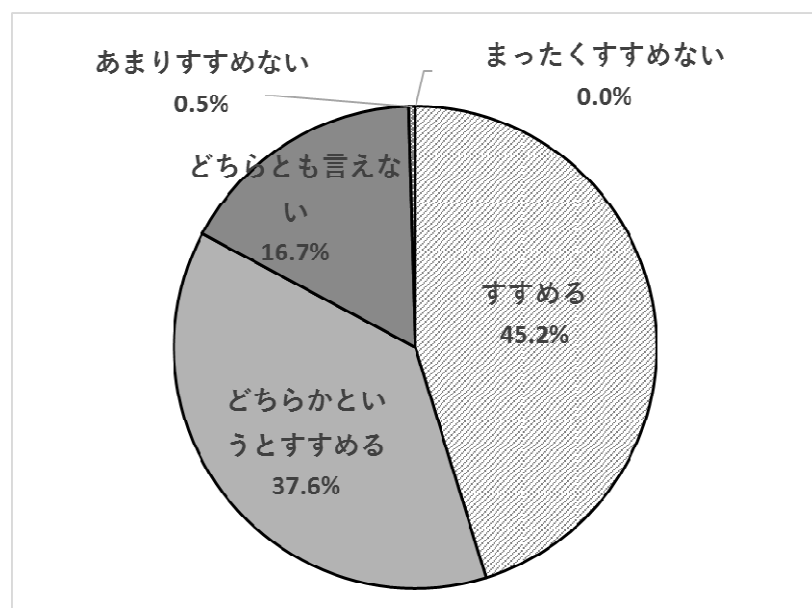


・改善してほしい点 図35 (N=218)



○他の患者さんにもがん患者会やサロンの入会・利用をおすすめしますか？

図36 (N=221)

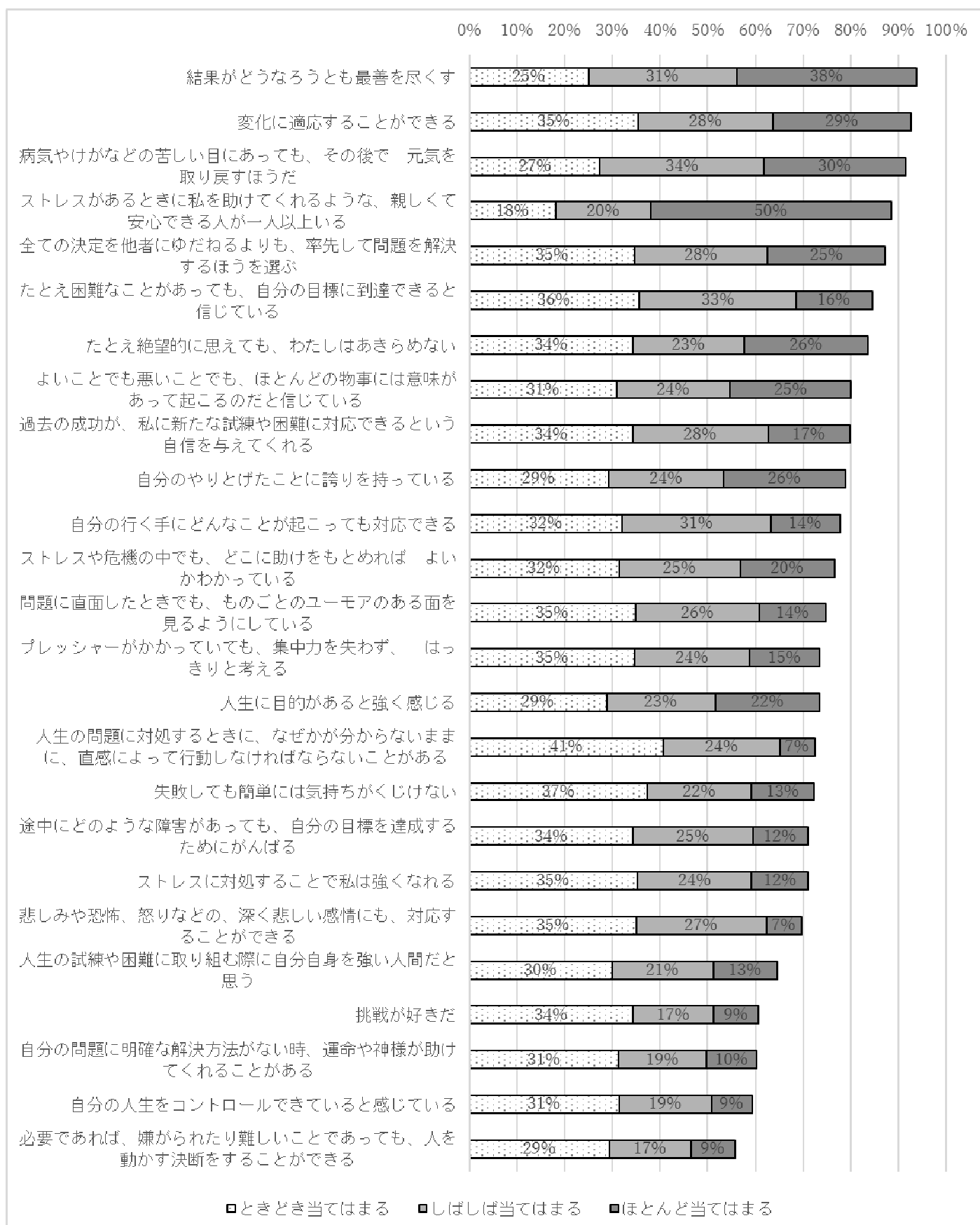


10. 患者自身のレジリエンス（精神的回復力・耐久力）について（図37、表12）

使用尺度：コーナーデビッドソン回復力尺度日本語版

次の説明文を読んで、この1ヶ月の自分にどの程度あてはまると思われるのかを教えてください。もし、そのような状況が最近なかった場合には、もしあったならどう感じただろうかと考えて回答してください。

図37（N=247）

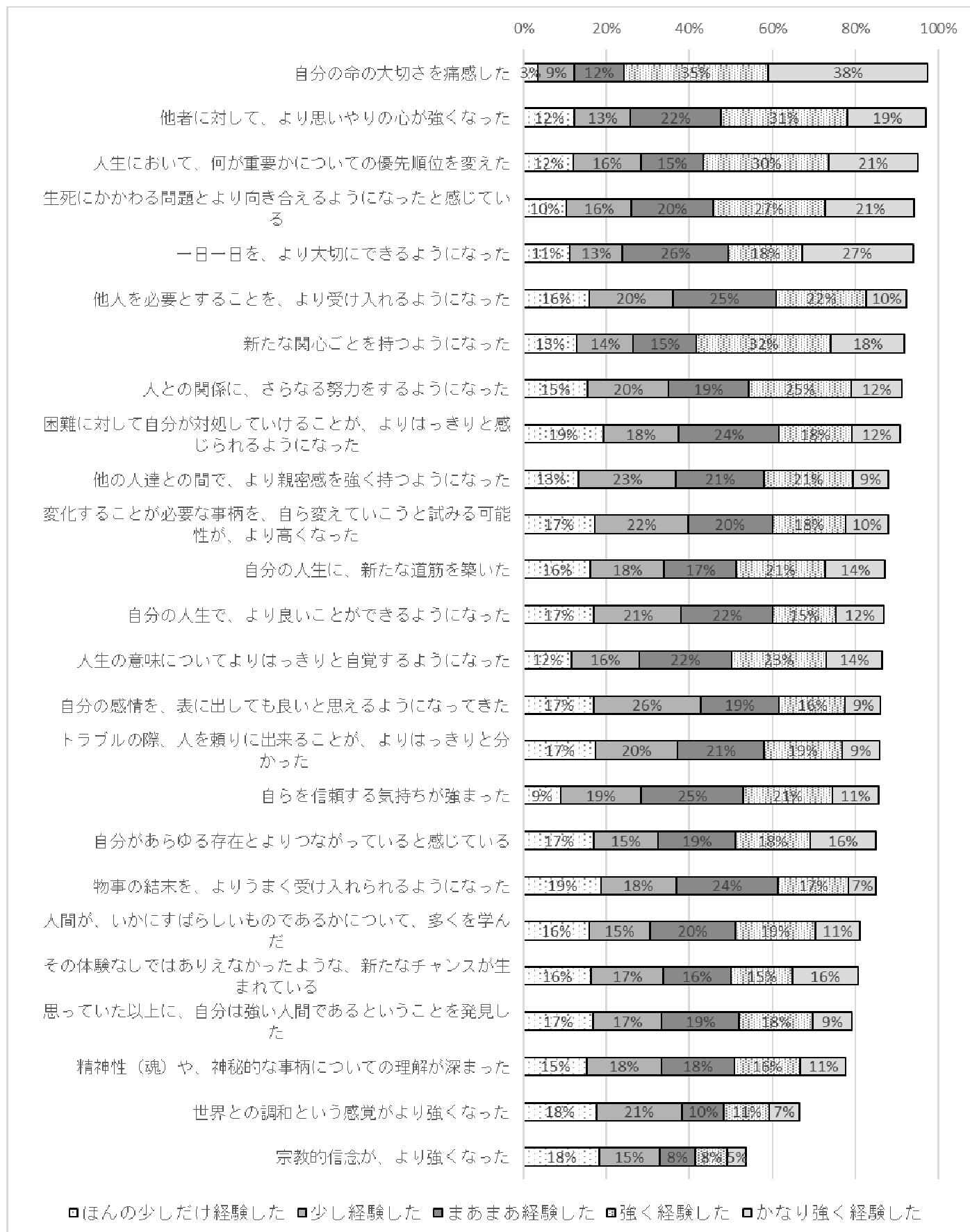


1 1. 心的外傷後成長（Post Traumatic Growth: PTG）について（図 3 8、表 1 3）

使用尺度：PTGI-X-J（日本語版外傷後成長尺度拡張版）

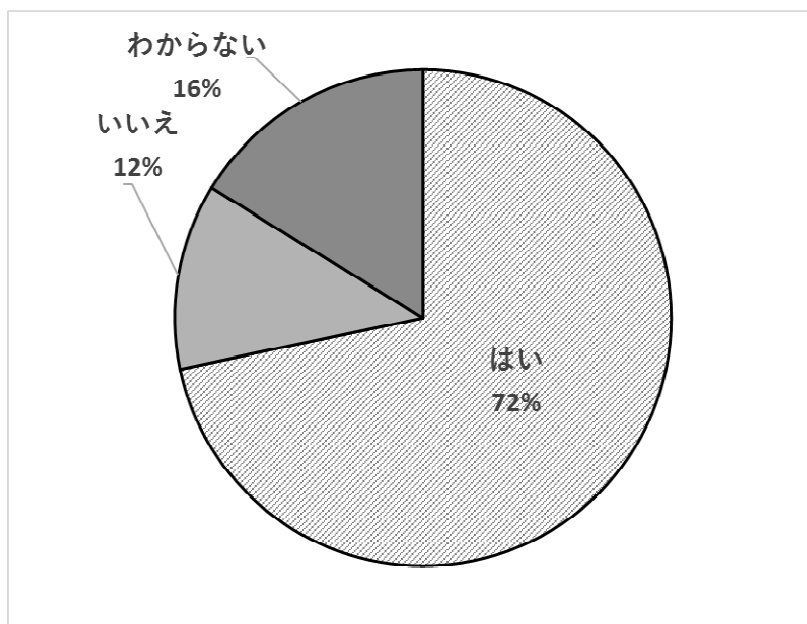
○以下の文章のそれぞれについて、「がんの診断を受けた」結果、あなたの生き方に、これらの変化が生じたか、最もあてはまるものを答えてください。

図 3 8（N=263）



○あなたはがんと診断されてから考え方や生き方が変化したと思いますか？（図39、表14）

図39（N=265）



12. 参考表（図で示した全てのデータを表で掲載しています）

表4 がんの診断からの治療経過について

		度数	%
○がんの治療を決めるまでの間、医療スタッフは治療についてあなたがほしいと思った情報を提供しましたか？	十分提供した	78	30%
	ある程度提供した	118	45%
	どちらとも言えない	31	12%
	あまり提供しなかった	17	7%
	まったく提供しなかった	8	3%
	情報を欲しいと思わなかった	8	3%
	無回答	23	
○がんの治療を決めるまでの間、あなたが欲しいと思った情報を得ることができましたか？	十分得られた	28	11%
	ある程度得られた	142	54%
	どちらとも言えない	48	18%
	あまり得られなかった	27	10%
	まったく得られなかった	5	2%
	わからない	11	4%
	無回答	22	
○あなたはセカンドオピニオンをうけましたか？	うけた	31	12%
	出来ればうけたいと思ったがうけなかった（言えなかった・行ける病院）	49	19%
	特にうけたいとは思わずうけなかった	131	51%
	セカンドオピニオンを知らなかった	29	11%
	セカンドオピニオンがなかった	16	6%
	無回答	27	
○がんの治療が始まる前に、他の医師の意見を聞くセカンドオピニオンをうけられることについて、担当医から説明はありましたか？	説明があった	54	21%
	説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した	22	9%
	説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問をしなかった	130	51%
	わからない/覚えていない	50	20%
	無回答	27	
○がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、納得のいく治療選択ができたと思いますか？	そう思う	132	50%
	ややそう思う	70	27%
	どちらとも言えない	37	14%
	あまりそう思わない	11	4%
	そう思わない	3	1%
	わからない	9	3%
	無回答	21	

表5 がんの診断・治療による経済的問題や経済状況について

		度数	%
○あなたは経済的な理由のために、医師からすすめられたがんの治療を変更したりやめたりしたことがありますか？	全くなかった	250	94%
	あまりなかった	12	4%
	ときどきあった	5	2%
	よくあった	0	0%
	無回答	21	
※あった場合、変更・中止した治療の種類 (複数回答)	化学療法（点滴による抗がん剤治療）	4	1.5%
	内服薬（化学療法、分子標的薬以外）	3	1.1%
	化学療法（内服による抗がん剤投与）	2	0.7%
	手術	1	0.4%
	公的保険外の先進医療（陽子線療法、重粒子線療法など）	1	0.4%
	放射線療法（公的保険内の治療）	0	0.0%
	分子標的薬	0	0.0%
	公的保険外の補完代替療法（サプリメント・自費の免疫療法）	0	0.0%
	その他	0	0.0%
○あなたは経済的な理由のために、本来であれば受けたいと思っていたがんの治療をやめたことがありますか？	全くなかった	245	92.8%
	あまりなかった	10	3.8%
	ときどきあった	8	3.0%
	よくあった	1	0.4%
	無回答	19	
※あった場合、変更・中止した治療の種類 (複数回答)	公的保険外の補完代替療法（サプリメント・自費の免疫療法）	7	2.6%
	公的保険外の先進医療（陽子線療法、重粒子線療法など）	6	2.2%
	その他	2	0.7%
	内服薬（化学療法、分子標的薬以外）	1	0.4%
	放射線療法（公的保険内の治療）	1	0.4%
	分子標的薬	1	0.4%
	手術	0	0.0%
	化学療法（点滴による抗がん剤治療）	0	0.0%
	化学療法（内服による抗がん剤投与）	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
○患者様またはご家族が、がんの治療について、金銭的な問題や経済的問題について医療者に相談したことがありますか？ (複数回答)	特に相談したことはなかった	227	86%
	医師	4	2%
	看護師	9	3%
	病院内のがん相談窓口	29	11%
	その他	4	2%
	無回答	18	
○あなたはこれまでに高額療養費制度をや限度額適用認定を利用したことがありますか？	ある	229	86%
	ない	30	11%
	わからない	8	3%
	無回答	16	
○あなたはがんの治療を続けるお金を支払うために、生活費を切り詰めたことがありますか？	全くなかった	130	49%
	あまりなかった	64	24%
	ときどきあった	49	18%
	よくあった	23	9%
	無回答	17	
○現在の世帯年収	100万円未満	13	5%
	100万円以上200万円未満	38	14%
	200万円以上400万円未満	101	38%
	400万円以上600万円未満	43	16%
	600万円以上800万円未満	38	14%
	800万円以上	31	12%
	無回答	19	
○世帯年収はがんの診断を受ける前と現在とでどのように変化しましたか？	とても減った	32	12%
	減った	73	27%
	変わらない	141	53%
	増えた	10	4%
	とても増えた	0	0%
	わからない	10	4%
	無回答	17	
※世帯年収が変化した場合、それはがんの診断を受けたことと関係があると思いますか？	はい、関係がある	49	27%
	いいえ、関係ない	103	57%
	わからない	29	16%
	無回答	102	

表6 あなたはこれまでに治療費（通院のための交通費なども含む）のために以下のようなことがありますか

	全く なかった %	ほとんど なかった %	ときどき あった %	よく あった %
服飾費（服などの衣料品、靴、かばんなど）を減らした	41%	20%	25%	14%
貯金を切り崩して生活していた	57%	13%	17%	13%
旅行やレジャーなどの余暇を減らした	58%	14%	15%	13%
家族の生活費や学費などについて心配事があった	59%	17%	16%	8%
より安価な食事に変更したりするなど、食事を減らした	57%	23%	15%	5%
副作用の脱毛対応のウィッグの購入を諦めた・安価なものに変更した	74%	13%	5%	9%
お金のことで家族間で言い争いになることがあった	78%	13%	7%	2%
親族（親、子、兄弟姉妹など）にお金を借りることがあった	82%	9%	4%	5%
収入を増やすために労働時間を増やした（残業・服飾など）	88%	7%	3%	3%
病院の受診や処方箋の受け取りを抑えることがあった	85%	10%	3%	2%
家賃がより安価な住まいに引っ越しをした	94%	4%	1%	2%
車や土地、家屋などの資産を売却した	95%	4%	0%	0%

表7 がんの診断・治療と仕事の関係について

	度数	%
○がんと診断された時、収入のある仕事をしはいい	167	62%
いいえ	101	38%
無回答	15	
○働いていた職場や仕事上の関係者にがん関係者に広く話した	60	36%
と診断されたことを話しましたか？	90	54%
一部の関係者のみに限定して話した	17	10%
話さなかった	116	
無回答	73	45%
○がんの治療中に、治療と仕事を両方続けらそう思う	21	13%
たは配慮を職場や仕事上の関係者から受けたややそう思う	23	14%
どちらとも言えない	9	6%
あまりそう思わない	29	18%
そう思わない	7	4%
わからない	121	
無回答	8	5%
○がんで初めて治療・療養した時、一定期間仕事を休みましたか？また、その後復職・復帰しましたか？	12	7%
休まなかった	98	59%
現在まで継続して休んでいる	13	8%
一定期間休み、その後、一度は復職・復帰した	29	17%
一定期間休み、その後、一度も復職・復帰せずに退職・廃業した	7	4%
一定期間の休みをつくることなく、退職・廃業した	116	
その他	84	52%
無回答	20	12%
○これまでのがんの治療・療養を通して、退職・廃業の有無と現在の仕事の状況について	18	11%
退職・廃業したことはない（休職・休業中で退職・廃業していない場合を含む）	30	18%
退職・廃業したことはあるが、現在は再就職・修業・開業している	11	7%
退職・廃業した。希望はあるが、現在は再就職・修業・開業していない	120	
退職・廃業した。特に希望はないため、現在は再就職・修業・開業していない		
その他		
無回答		

表8 がん相談支援センターの利用状況について

		度数	%
○がん相談支援センターを知っていますか？	利用したことがある	85	32%
	利用したことはないが、知っている	143	54%
	知らない	35	13%
	わからない	4	1%
	無回答	16	
○がん相談支援センターを利用して役に立った と思いましたか？	とても役に立った	46	23%
	やや役に立った	30	15%
	どちらとも言えない	17	8%
	あまり役に立たなかった	5	2%
	まったく役に立たなかった	0	0%
	わからない/利用していない	104	51%
	無回答	81	

表9 「ピアサポート」について

		度数	%
○あなたはピアサポートという言葉を知っていますか？	知っており、利用・活動したことがある	83	31%
	知っているが、利用・活動したことがない	64	24%
	聞いたことはあるがよくわからない	40	15%
	知らない/聞いたことがない	82	30%
	無回答	14	
○ピアサポートは必要だと思いますか？	とても必要	146	55%
	どちらかといえば必要	75	28%
	どちらとも言えない	19	7%
	あまり必要ではない	3	1%
	まったく必要ではない	0	0%
	わからない	22	8%
	無回答	18	
○自分と同じがんの種類（がんの部位）の患者さんの体験談を聞きたいと思いませんか？	そう思う	153	57%
	どちらかといえばそう思う	66	25%
	どちらとも言えない	29	11%
	あまりそう思わない	11	4%
	そう思わない	7	3%
	わからない	3	1%
	無回答	14	
○あなた自身がピアサポート活動を行っていきたく思いますか？	そう思う	66	25%
	どちらかといえばそう思う	55	21%
	どちらとも言えない	92	34%
	あまりそう思わない	24	9%
	そう思わない	11	4%
	わからない	20	7%
	無回答	15	

表１０ ピアサポート活動について、どのような内容を聞きたいと思いますか？また、どのようなことを希望しますか？

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
	%	%	%	%	%
副作用の症状がある際の工夫について	64%	29%	3%	2%	2%
日常生活について	56%	31%	6%	6%	2%
治療について	53%	29%	7%	6%	5%
自分の気持ちなど、話を聞いてもらいたい	45%	35%	10%	8%	2%
つらい気持ちを共有したい	38%	39%	11%	11%	2%
治療のことで相談にのって もらいたい	36%	38%	13%	9%	4%
日常生活のことで相談に のってもらいたい	35%	34%	16%	11%	4%
家族や子供のことについて 相談したい	25%	24%	19%	26%	6%
社会復帰、仕事のことに ついて相談したい	22%	26%	16%	30%	6%

表 1 1 がん患者会・サロンについて

		度数	%
○あなたはがん患者会やサロンを利用したことがありますか？	利用したことがある	220	83%
	知っている・聞いたことはあるが、利用したことはな	36	14%
	知らない・聞いたことはなく、利用したこともない	8	3%
	無回答	19	
○あなたは患者会の会員ですか？	はい	188	86%
	いいえ	31	14%
	無回答	64	
○患者会・サロンに参加したのは、がん と診断されてからどれくらいの時期です か？	1年未満	105	47%
	1年以上3年未満	69	31%
	3年以上5年未満	19	9%
	5年以上10年未満	21	9%
	10年以上15年未満	4	2%
	15年以上20年未満	2	1%
	20年以上	2	1%
	無回答	61	
○患者会・サロンの存在を何で知りましたか？（複数回答）	病院内のポスターやチラシ	135	61%
	医師・看護師などスタッフから聞いた	72	32%
	インターネット	16	7%
	家族や友人から聞いた	24	11%
	その他	26	12%
	無回答	60	
○がん患者会やサロンの利用は役に立ち ましたか？	とても役に立った	152	69.1%
	やや役に立った	57	25.9%
	どちらとも言えない	9	4.1%
	あまり役に立たなかった	1	0.5%
	まったく役に立たなかった	1	0.5%
	無回答	63	
○他の患者さんにごがん患者会やサロンの 入会・利用をおすすめしますか？	すすめる	100	45.2%
	どちらかというすすめる	83	37.6%
	どちらとも言えない	37	16.7%
	あまりすすめない	1	0.5%
	まったくすすめない	0	0.0%
	無回答	62	

表１２ 患者会・サロンの参加・利用はどのような点で役に立ちましたか？また、どのような点を改善してほしいと思いますか？

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	わからない
	%	%	%	%	%
※役に立ったこと					
気分転換ができた	65%	30%	1%	3%	1%
聞きたかったことが聞けた	50%	35%	7%	4%	4%
自分の胸の内を話せた	42%	34%	12%	6%	5%
仲間・友達ができた	42%	29%	11%	12%	6%
※要望・改善してほしいこと					
個別に相談できるような企画があるとよい	26%	43%	13%	8%	11%
講演会や勉強会の回数を増やしてほしい	26%	39%	17%	7%	11%
もっと広報誌などで情報発信してほしい	25%	35%	23%	8%	8%
レクリエーションなど、楽しめるような会をもっと開催してほしい	21%	34%	22%	11%	11%

表 1 3 患者自身のレジリエンス（精神的回復力・耐久力）について

	まったく当てはまらない	ほとんど当てはまらない	ときどき当てはまる	しばしば当てはまる	ほとんど当てはまる
	%	%	%	%	%
結果がどうなるうとも最善を尽くす	2%	4%	25%	31%	38%
変化に適応することができる	3%	4%	35%	28%	29%
病気やけがなどの苦しい目にあっても、その後で 元気を取り戻すほうだ	2%	6%	27%	34%	30%
ストレスがあるときに私を助けてくれるような、親しくて安心できる人が一人以上いる	4%	7%	18%	20%	50%
全ての決定を他者にゆだねるよりも、率先して問題を解決するほうを選ぶ	2%	10%	35%	28%	25%
たとえ困難なことがあっても、自分の目標に到達できると信じている	5%	10%	36%	33%	16%
たとえ絶望的に思えても、わたしはあきらめない	4%	13%	34%	23%	26%
よいことでも悪いことでも、ほとんどの物事には意味があって起こるのだと信じている	7%	13%	31%	24%	25%
過去の成功が、私に新たな試練や困難に対応できるという自信を与えてくれる	5%	15%	34%	28%	17%
自分のやりとげたことに誇りを持っている	7%	14%	29%	24%	26%
自分の行く手にどんなことが起こっても対応できる	5%	17%	32%	31%	14%
ストレスや危機の中でも、どこに助けをもとめれば よいかわかっている	6%	18%	32%	25%	20%
問題に直面したときでも、ものごとのユーモアのある面を見るようにしている	6%	19%	35%	26%	14%
プレッシャーがかかっている、集中力を失わず、 はっきりと考える	4%	23%	35%	24%	15%
人生に目的があると強く感じる	5%	21%	29%	23%	22%
人生の問題に対処するときに、なぜかが分からないままに、直感によって行動しなければならないことがある	6%	22%	41%	24%	7%
失敗しても簡単には気持ちがくじけない	5%	22%	37%	22%	13%
途中でどのような障害があっても、自分の目標を達成するためにがんばる	7%	22%	34%	25%	12%
ストレスに対処することで私は強くなれる	8%	21%	35%	24%	12%
悲しみや恐怖、怒りなどの、深く悲しい感情にも、対応することができる	7%	23%	35%	27%	7%
人生の試練や困難に取り組む際に自分自身を強い人間だと思う	13%	23%	30%	21%	13%
挑戦が好きだ	11%	28%	34%	17%	9%
自分の問題に明確な解決方法がない時、運命や神様が助けてくれることがある	17%	23%	31%	19%	10%
自分の人生をコントロールできていると感じている	12%	29%	31%	19%	9%
必要であれば、嫌がられたり難しいことであっても、人を動かす決断をすることができる	13%	31%	29%	17%	9%

表 1 4 心的外傷後成長 (Post Traumatic Growth: PTG) について

	まったく経験 しなかった	ほんの少しだ け経験した	少し経験した	まあまあ経験 した	強く経験した	かなり強く経 験した
	%	%	%	%	%	%
自分の命の大切さを痛感した	3%	3%	9%	12%	35%	38%
他者に対して、より思いやりの心が強くなった	3%	12%	13%	22%	31%	19%
人生において、何が重要かについての優先順位を変えた	5%	12%	16%	15%	30%	21%
生死にかかわる問題とより向き合えるようになったと感じている	6%	10%	16%	20%	27%	21%
一日一日を、より大切にできるようになった	6%	11%	13%	26%	18%	27%
他人を必要とすることを、より受け入れるようになった	8%	16%	20%	25%	22%	10%
新たな関心ごとを持つようになった	8%	13%	14%	15%	32%	18%
人との関係に、さらなる努力をするようになった	9%	15%	20%	19%	25%	12%
困難に対して自分が対処していけることが、よりはっきりと感じられるようになった	9%	19%	18%	24%	18%	12%
他の人達との間で、より親密感を強く持つようになった	12%	13%	23%	21%	21%	9%
変化することが必要な事柄を、自ら変えていこうと試みる可能性が、より高くなった	12%	17%	22%	20%	18%	10%
自分の人生に、新たな道筋を築いた	13%	16%	18%	17%	21%	14%
自分の人生で、より良いことができるようになった	13%	17%	21%	22%	15%	12%
人生の意味についてよりはっきりと自覚するようになった	14%	12%	16%	22%	23%	14%
自分の感情を、表に出しても良いと思えるようになってきた	14%	17%	26%	19%	16%	9%
トラブルの際、人を頼りに出来ることが、よりはっきりと分かった	14%	17%	20%	21%	19%	9%
自らを信頼する気持ちが強まった	14%	9%	19%	25%	21%	11%
自分があらゆる存在とよりつながっていると感じている	15%	17%	15%	19%	18%	16%
物事の結末を、よりうまく受け入れられるようになった	15%	19%	18%	24%	17%	7%
人間が、いかに素晴らしいものであるかについて、多くを学んだ	19%	16%	15%	20%	19%	11%
その体験なしではありえなかったような、新たなチャンスが生まれている	19%	16%	17%	16%	15%	16%
思っていた以上に、自分は強い人間であるということを発見した	21%	17%	17%	19%	18%	9%
精神性(魂)や、神秘的な事柄についての理解が深まった	22%	15%	18%	18%	16%	11%
世界との調和という感覚がより強くなった	33%	18%	21%	10%	11%	7%
宗教的信念が、より強くなった	46%	18%	15%	8%	8%	5%

表 15

		度数	%
○あなたはがんと診断されてから考え方や生き方が変化したと思いますか？	はい	190	72%
	いいえ	32	12%
	わからない	43	16%
	無回答	5	